公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成26年9月1日発行（毎月1回1日発行）通巻545号

ハンドボール

AUG. SEP. 2014 No.545

特集

第2回U-22東アジア選手権
第19回女子ジュニア世界選手権
第19回ヒロシマ国際大会

［表紙写真］第19回ヒロシマ国際大会、男子・高智海吏選手（左）、女子・石立真悠子選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

代表取締役　青木 理恵

販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方の将来設計において、不動産を用いた資産づくり・将来的な安定収入を得ていただくご提案をさせていただいております。

2014年10月には、自社ブランド『 YURIKA ROSE 』(ユリカ ロゼ) シリーズをスタートさせます！

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

日本代表の強化を担う
リーグ機構の役割

公益財団法人 日本ハンドボール協会常務理事
日本ハンドボールリーグ機構 委員長 **西窪 勝広**

日本リーグ機構は、日本リーグの理念に基づき、地域に根ざしたホーム＆アウェイでスポーツのステータスを向上させ、日本リーグでプレーする選手たちが国際大会で戦い抜く競技力向上にも努めるとともに、日本協会強化部と一枚岩となり、日本代表チームを支援してまいります。

日本代表チームの支援という点では、日本リーグのスケジュールを全て日本代表チームの国際大会に合わせるといった運営面はもちろんのこと、日本リーグに所属する各チームが、日ごろの試合、トレーニングで代表選手を育て、自信を持って人材を代表チームに送り出す、という姿勢を持って活動することを促すことも、日本リーグ機構の役目と考えております。

各チームがそうした姿勢を持って活動することを促すために、日本リーグ機構はオーナー会議、GM 会議を通じて、各チームがリーグ全体の課題として、人材育成に取り組むよう、尽力しております。

各チームが日ごろから「日本代表選手を育てている」という意識を持ち、活動することが、リーグの発展はもちろん、2019 年の熊本女子世界選手権、そして 2020 年の東京オリンピックにもつながると確信しております。

人材育成の心意気を持つとともに、手に汗握る熱戦をお見せして、観戦する方々に満足していただける運営に努めることも、日本リーグ機構の責務です。

そのための１つの取り組みとして、今年度より日本リーグスタッフ、レフェリーとの合同研修会を開催し、現場とレフェリーが両輪となって意見交換を行い、納得のいく運営をめざしております。

これまで日本リーグ開催地の方々には多大なご尽力をいただいてきておりますが、開催地責任者会議での協議などを通じ、さらに選手たちのパフォーマンスを引き出す企画、運営も追求していきたいと考えております。

選手たちのベストパフォーマンスや斬新な企画で試合会場が満杯となれば、開催地は潤い、日本代表の強化にも結びつきます。

間もなく日本リーグは 40 周年。その節目に向けてのプロジェクトを立ち上げ、日本の中心・東京でのレギュラーシーズンの試合や、オールスター戦の開催なども計画し、日本リーグでプレーする選手たちの躍動ぶりをこれまで以上にハンドボール愛好者の方々にお披露目していく所存です。

2019 年、2020 年というハンドボール界にとってまたとない大きなチャンスをものにするためにも、皆様のお知恵を拝借しながら、日本リーグ機構が強化の拠点となれるよう、尽力していきたいと考えております。

日本リーグ機構によりいっそうのご支援をお願いいたします。

第2回U-22東アジア選手権

2ND EAST ASIAN HANDBALL CHAMPIONSHIP U-22

【最終順位】
［男子］優勝：韓国　2位：日本　3位：台湾　4位：香港　5位：中国　6位：マカオ
［女子］優勝：韓国　2位：日本　3位：台湾　4位：中国　5位：香港

主　催：東アジアハンドボール連盟
開催地：香港
日　時：2014年6月29日（日）～7月6日（日）

【星取表】

男子		KOR	JPN	TPE	HKG	CHN	MAC	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓国（KOR）		44○35	27○20	35○22	46○22	43○17	5	5-0-0	195	116	79	10
2位	**日本（JPN）**	35●44		27○23	33○16	45○24	53○4	5	4-0-1	193	111	82	8
3位	台湾（TPE）	20●27	23●27		25○16	35○21	42○12	5	3-0-2	145	103	42	6
4位	香港（HKG）	22●35	16●33	16●25		32○24	37○15	5	2-0-3	123	132	-9	4
5位	中国（CHN）	22●46	24●45	21●35	24●32		46○23	5	1-0-4	137	181	-44	2
6位	マカオ（MAC）	17●43	4●53	12●42	15●37	23●46		5	0-0-5	71	221	-150	0

女子		KOR	JPN	TPE	CHN	HKG	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓国（KOR）		30○23	35○21	30○24	36○9	4	4-0-0	131	77	54	8
2位	**日本（JPN）**	23●30		35○29	32○25	37○8	4	3-0-1	127	92	35	6
3位	台湾（TPE）	21●35	29●35		30○19	32○17	4	2-0-2	112	106	6	4
4位	中国（CHN）	24●30	25●32	19●30		28○12	4	1-0-3	96	104	-8	2
5位	香港（HKG）	9●36	8●37	17●32	12●28		4	0-0-4	46	133	-87	0

第2回U-22東アジア選手権に参加して

男子監督　松　喜美夫

■はじめに

今回の第2回U-22東アジア選手権に参加のご支援を頂いた日本ハンドボール協会、全日本学生ハンドボール連盟、北海道学生ハンドボール連盟、東北学生ハンドボール連盟、関東学生ハンドボール連盟、株式会社エモックエンタープライズ様に感謝を申し上げます。さらに、ボール等の用具の提供を頂いた株式会社モルテン様、トレーニング会場とトレーニングを一緒にお手伝い頂いた日本大学ハンドボール部の皆さま、早稲田大学ハンドボール部の皆さま、社会人選手権直前の重要な時に練習試合をして頂き、Tシャツまでご提供頂いた大崎電気ハンドボール部の皆さまには厚く御礼を申し上げます。

■2014年度　U-22男子日本代表チーム

今回のU-22男子日本代表チームは、おおよそ大会開催の1ヶ月前に編成されたことから、非常に準備期間の短い間でチーム作りをしなければいけないという難しいものでありました。私達が大会参加までに行うことのできたトレーニング回数はわずか5回であります。この少ない回数のトレーニングで、今大会における守備や攻撃での個々の考えをはっきりと伝え、選手間やコーチ間および選手とコーチの間で多くのコミュニケーションをおこなうことを重視しました。ただ、やはり準備期間は非常に短く、多くのやり残したことを持ったまま大会開催地である香港へ出発することとなりました。特に、選手らに、日本代表チームの意味や責任についての理解を求めましたが、これらの理解が十分ではない状態で、現地入りしました。この原因としては、チームの編成が大会直前であったこと、チームでのトレーニングがわずか5回しか持てなかったことが関係していると考えています。この問題に関しては、日本ハンドボール協会がしっかりとリーダーシップをとり、チーム作りのために必要な時間を鑑みて、適切な時期にチーム編成を行い、監督・コーチや選手に十分なトレーニング時間を与えるような準備をして頂くことを希望致します。十分なトレーニング時間を確保することにより、選手と監督・コーチが共に時間を過ごすことができ、これらの時間がチームの強化のみならず、日本ハンドボールの強化の責任や日本代表チームの重み、国際大会に出場する意味を理解させることにつながります。そして、これらのことが、若い選手らにとっては、有意義な国際大会への参加となり、将来のさらなる活躍のための糧になると信じております。

6月28日に羽田国際空港より香港へ移動し、大会期間中のスケジュールは、基本的に午前中はトレーニング、午後はゲームというものでありました。6月29日には、午前中でのトレーニングで守備・攻撃での戦術的な確認を行い、午後、オープニングセレモニー直後に中国戦を行い45対24というスコアで勝利することができました。この初戦は、勝利したことよりも、代表チームとして国際大会を経験したことで、今まで促し続けていた日本代表チームの意味や責任についての理解が選手らに芽生え始めたようでありました。続く30日台湾戦は27対23のスコアで勝利し、試合後には、日本代表チームとして、他国代表チームと戦う喜びや試合の結果に対する責任についての言葉が選手らから語られるようになりました。事実、翌日の午前トレーニングからは、ほとんどの選手達が前日までのトレーニングと変わって、より自主的に動き始め、自分がチームの為に必要な事は何かを考え行動し始め、選手間および選手とコーチとの間のコミュニケーションも活発になり、求めているレベルに近づき始めました。7月2日マカオ戦、4日香港戦では、どのような相手であっても、自分達は日本を代表しているチームだということを忘れずに、60分間、全力を出し続けようということを確認した結果、マカオ戦ではベンチメンバーが全員出場し53対4、香港戦では33対16のスコアで勝利しまし

た。大会開始からここまでで、チームは劇的に成長し、たった7日間ではあるが、香港到着当初と比較すると大きな成長を実感しました。7月6日の韓国戦では、日本と韓国を分析した結果、両チームの攻撃力、守備力に大きな差がなく十分勝負ができる状況であると考えていました。しかし、実際の試合では、セットDFは事前の韓国チームの攻撃分析もあって十分に機能していたが、セット攻撃では、韓国チームのオープンな守備を崩すためのコンビネーションプレーで、パスミスやキャッチミスを多発し、逆速攻で多くの失点をしてしまい、35対44という大差で敗戦しました。チーム編成の時から、今大会の最重要な試合は、大会最終日の韓国戦であり、日本での5回のトレーニングと大会が始まってからの1時間のトレーニング5回と試合4試合を通じて、韓国戦にチームのパフォーマンスがピークになるようにチームをコントロールしてきました。その結果、短時間でのチーム作りでしたが、先述したようにチームは著しく成長しました。ただ、韓国に勝利するまでは至ることができませんでした。韓国戦後、選手らは皆、今大会への参加への意義と感謝を、また、将来も代表チームの選手となって、国際大会を戦いたいという希望を述べておりました。たった10日間で、東アジアのみの小さな国際大会ではありましたが、選手らにとっては、大きな意味を持つ大会であったと感じております。

今回のチーム編成の遅延の反省と今大会での選手の成長を鑑みて、今後のU-22東アジア選手権では、U-19やU-21の選手の国際大会経験と代表チームの一員である責任感や将来のモチベーションを植え付けるような強化につながる参加となればと考えます。また、U-22東アジア選手権では、オーバーエイジ枠が2名あることから、このオーバーエイジ枠を上手く使うことによって、シニア選手と若い選手の交流やシニア選手からの代表選手としての意識付けなどを上手く伝えることができる可能性も考えられます。

■アナリストの分析コーチとしての採用

今大会では、新たな試みとしてアナリストを分析コーチとして採用しました。分析コーチには、自チームおよび対戦相手チームの守備・攻撃の量的・質的分析を行い、その分析結果に基づいたトレーニングドリルを提案させるという役割を持たせました。韓国を対象とした分析では、攻撃については、特徴的なきっかけ行動や攻撃の最終局面、鍵となる選手の特徴的な行動を、同様に守備については、基本的な守備形態からのそれぞれの選手の行動やゴールキーパーの特徴を数量データや映像を用いて表し、過去の韓国代表チームなどの類似したプレー映像と比較しながら、それらの解決策についての提案が行われました。これらグラフや映像を用いた相手チームを分析する手法は、私たちにとって、非常に理解しやすく、今回のような短時間でチームづくりをしなければいけない状況下では、ずいぶんと役に立ちました。このようにチームの一員としてアナリストを加えることで、客観的に物事を観察でき、日々のコーチングの中に多くの情報を取り入れることができたと感じております。そこで、それぞれのカテゴリーの日本代表チームにおいて、自チームや相手チームを量的・質的に分析することができ、分析されたデータを可視化し、他のコーチや選手らに理解しやすく説明をすることができる分析コーチ（もしくは、コーチにトレーニングや解決策を提案する権限をもったアナリスト）の導入を提案いたします。

■第2回U-22東アジア選手権の運営

今回の第2回U-22東アジア選手権は、香港協会のホスピタリティー溢れる大会運営で大成功の大会であったと思います。大会運営をしている香港協会関係者は、どのような時でも、我々の要望を聞く準備をし、最大限の努力をして頂けました。大会3日目の夜には、香港協会が東アジアハンドボール連盟の代表者、各国のチーム代表者およびレフェリーを招いたレセプションがありました。そこでは、香港ハンドボール協会会長である何氏と東アジアハンドボール連盟会長である鄭氏を中心として、将来の東アジアにおけるハンドボール競技の発展について語られておりました。そして、この場で、来年度のU-22東アジア選手権は、台湾にて開催されることが発表され、再来年は中国広州で、その後も続けていく予定であり、将来的に、シンガポールやタイが、このU-22東アジア選手権へ参加したいとの意向も伝えられました。特に、シンガポールの代表者は今大会を視察に来ており、次大会への参加を予定しているとのことでありました。7月5日午前には、東アジアハンドボール連盟会長の鄭氏によるハンドボールコーチング講習会が開催され、参加チームの監督・コーチを対象に、韓国代表チームの映像を用いながら、攻撃や守備についてのレクチャーが行われました。大会を通して、特に、レセプションやコーチング講習会、最終日のフェアウェルパーティーにおいても、現時点の東アジアハンドボール連盟の主導権は、韓国が握っており、韓国自身も東アジアでのリーダーであるという自負を有していると感じました。もし、日本が東アジアのハンドボール界において、十分な影響力を有する必要があると考えるのであるようでしたら、このU-22東アジア選手権は、非常に重要な政治の場でもあり、チームの参加のみならず、日本ハンドボール協

会を代表するような代表者の出席が必須である大会である思います。

最後に、本大会の参加前から参加後までの間、様々なサポートをして頂いた日本ハンドボール協会事務局の皆さまに感謝申し上げます。

U-22 東アジア選手権（香港）を終えて

男子主将　堤　由貴

今回私たちは 2014 年 6 月 29 日（日）～ 7 月 6 日 (日) に香港で行われた第２回 U-22 東アジア選手権へ参加させていただきました。結果は韓国に大差で負けて２位という結果でした。今回私たちは優勝目指し大会に挑みましたが、結果を残すことができず非常に悔しい思いをしました。韓国と僕たち日本ではどのような差があったのだろうか。私はチーム力の差ではないかと考えます。韓国代表は私たちの一つ下のジュニアの世代ですが、彼らは昨年に行われた世界選手権にも出場しており、確実に私たちよりチームとして出来上がっていました。もう結果が出てしまった今となっては何を言っても言い訳にしかならないと思いますが、私たちももう少し多く練習をして、コンビを合わせることができたらまた違った結果になっていたかもしれないと私は考えます。しかしそれ以前に簡単なミス、ノーマークシュートを決めきれなかったというのも韓国に負けた原因です。やはり、格上の相手と戦うときは、簡単なミスやノーマークシュートをしっかり決めきるということが最低限必要なことであると考えるので、もし格上の相手と戦う機会があれば今回の反省を生かしていきたいと思います。

今回の大会に参加するにあたって、ご支援ご尽力頂いた皆様本当にありがとうございました。多くの方からサポートしていただいただけに結果を残し、恩返しをしたかったのですが２位という結果になってしまいました。本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

第２回 U-22 東アジア選手権を終えて

女子監督　山﨑 英幸

関西学連の加納理事長より、この大会の監督就任の打診をいただいたとき、素直に「なぜ関西でも下位チームの監督の私が」という思いがありました。ですが、これも縁、巡り合わせなんだと自分に言い聞かせ、ご推薦いただいたことに感謝し承諾することを伝え、理事会で正式決定となりました。やるからには選ばれた選手たちに失礼のないようにきっちりとやり遂げようと決意し、この大会のコーチである武庫川女子大学監督の松木さんと方針などの打ち合わせをしました。

この時期の関西は、新人戦の開催（5 月 31 日～ 6 月 8 日）と 4 年生の教育実習が重なっており、練習日程を確保するのが困難な状態で、全員が揃うのを待っていると 1 日しか練習ができないことが判明し、割り切って参加出来る選手だけでも招集して行うことをコーチと決めました。

練習会が 4 日しかないためテストマッチを重ねながらチームを作ることとし、立命館大学、武庫川女子大学、関西大学、香川銀行Ｔ・Ｈにお世話になりました。特に香川銀行Ｔ・Ｈには土日を使ってお相手していただき、フィジカルの必要性を再確認させていただきました。東アジア選手権では、体格の大きい中国、体幹の強さ・スピードのある韓国、個々がパワーを持つ台湾と対戦するだけにいいテストマッチになりました。

練習会初日にまず選手たちに『この場所にいることに感謝すること。もちろん、各個人の実力でもあるが、保護者の方、顧問の先生など関わってくださった方々のおかげでここにいるんだ。選ばれたからには、その感謝に 報いるべく代表として恥ずかしくない振る舞いをしよう。選抜チームなので一番大切なのは、コミュニケーションだ』ということを伝えました。

選手たちは、4 年生 9 名、3 年生 2 名、2 年生 2 名、1 年生 3 名で、初日の練習会で眞継キャプテン、角南副キャプテンを指名しチーム作りをすることとしました。

初めは様子見をしていた選手たちが打ち解けたのは、眞継キャプテンの「せっかくいろんなチームから集まってるんだから楽しくやろう」という言葉からでした。

回を重ねる度にコミュニケーションが取れて来出し、チームとしてのまとまりが出て来ました。第２回目の練習会時にデレゲーションジャージが届き、数名にサイズ違いがあり、日本協会に連絡したところデレゲーションの作成には通常３ヶ月ぐらいかかるとのことでした。このことから、チーム発足はそれ以前に行われることが通例なのだということが分かり、このチームで大丈夫なのかと少し不安になりましたが、松木コーチと「選手のためにもやり切ろう」と決意を新たにしました。

6 月 28 日、関空を飛び立ち香港へ。その日から毎日 1 時間の練習が組まれており、そこで細かい調整やコンディショニングをし、初戦である中国戦を迎えました。

選手たちは、体格が大きくブレイクスルーを狙ってくる中国選手に対して体を張ったディフェンスをし、速攻をしかける展開に持ち込み勝利しましたが、フィジカルの違いから体力の消耗は相当なものでした。その後２連勝し、7 月 6 日の韓国戦を迎えるまで、数名の選手が体力の消耗とストレスなどから下痢の症状を訴えましたがトレーナーの川崎さんのケアのおかげで大事には至りませんでした。

韓国戦当日は、松木コーチが作成したモチベーションビデオを見､最後に､私が奉職している学園の理事長の『夢は逃げない 逃げるのは自分』という言葉を入れていただき、勝つんだという気持ちを高めました。結果は、負けてしまいましたが、選手たちは決して逃げることなく最後まで自分たちのハンドボールをやり続けました。もちろん、ベンチにいる選手も声が枯れんばかりに応援をし、チーム全員で韓国と戦いました。

試合後、ホテルに帰って最終ミーティングを行い､一人一人に今思うことを話してもらいました。その言葉から選手たちは、確実に成長しており、また、もっと成長したいという想いが強く感じられました。彼女たちにとっては、新たな出会い、経験をしたことで、とても有意義で忘れられない大会になったようです。眞継キャプテン、角南副キャプテンを中心に「明るく、元気」だけでなく「しっかり考え、行動する」というよくまとまったチームでした。

大会運営に関しては、役員の方々やチーム担当の方の対応がとても素晴らしく、いつも笑顔で私たちに接してくださったことで不安なく大会を終えることができました。選手たちは、彼女たちとすぐに打ち解けSNSを使って交流を続けているようです。最終日の空港では、チーム付きスタッフMarsのサプライズ誕生会を空港でおこないお互い涙し､分れを惜しみました。

帰国後、ある選手の保護者から、故障でハンドボールを諦めかけていた娘が「オリンピックに出たい。とことんやりたい。」と香港からメールをしてきたという連絡がありました。

今まで代表経験のなかった選手が、この大会を機に真摯にハンドボールと向き合い、向上心を持てたことは素晴らしいことだと思います。学生界の発展を考えると今後も学生選抜で参加することに意義があると思います。

選手たちにとってこの大会をもっと有意義にするためには、やはり即席ではなく期間を十分とり、準備をすることが必要ではないかと感じました。

また、この大会には各国の協会役員やチームリーダーが来られており、次回大会などに関しての活発な議論があり、タイやシンガポールもこの大会に興味を示しているという話も出たようです。東アジアで孤立しないためにも、日本がこの大会運営に人員を派遣し、積極的に関わり日本の存在感をアピールすることが必要ではないかと感じました。

最後になりましたが、今大会への出場機会を与えていただいた方々をはじめ、ご支援、ご声援いただいた多くの方々に心より感謝いたします。

第2回U-22東アジア選手権に出場して

U-22女子代表　眞継 麻礼

今回、第2回東アジアU-22選手権大会に出場させて頂きました。

女子は関西選抜チームを組んで、出場しましたが、国際大会の経験が無い選手が多く、前回のような成績が上げられるか不安でいっぱいでした。監督から、高い3：3DFを組みアグレッシブなDFから相手のミスを誘い速攻に持ち込んで戦うことをチームの共通戦術にしようと指示を受け、最初の中国戦に臨みました。中国チームはとにかく大きく、最初とまどいがありましたが、途中からDFがうまく機能し、狙い通りの試合でした。続いて、香港戦、台北戦は想定通りの試合が出来、全員出場できた会心の試合でした。最終日、優勝をかけて韓国チームと対戦しました。23対30で負けましたが、韓国チームは他のチームと違い、個人の能力が高く、1対1の強さや、ミスの後の展開の早さなど、普段味わえないような厳しさを感じました。プレッシャーが続く中、チームの中に疲労感が増し、足が止まり3：3DFの弱点である広いスペースを逆に相手に攻められてしまいリズムを崩してしまう場面もありました。全ての試合を通してまだまだ体力的な部分を鍛えなければならないことを痛感しました。

今回、大会を通して日本を応援してくれる人の多さに感動しました。日本女子チームのサポートについてくれた香港のサポーター2人が必死に応援してくれ、たくさんサポートを頂きました。他にも現地の香港の多くの方が「頑張って」と声をかけて下さり、母国でもない日本をこんなにも応援してくれることにとても感動しました。同時に日本の素晴らしさを感じることができ、日本でハンドボールを出来ていること、日本人であることにとても誇りに思いました。日本を出て海外に来なければ感じることが出来なかったことだと思います。

関西選抜ということもあり普段からリーグや練習試合などをよく行うチームのライバルと同じチームになり、一緒にハンドボールができることをすごく嬉しく思いました。

優勝という結果を残すことが出来ず、関西の力を日本に、東アジアに見せつけることが出来ずとても悔しいです。今大会にあたりこのような機会を与えて頂いた方々をはじめ、ご支援して頂いた多くの方のおかげで無事に大会を終えることが出来ました。この経験を糧にして各チームに戻りまたライバルとして切磋琢磨して頑張れるように取り組みたいと思います。

戦　評

男　子

■6月29日（日）

日本　45（21-12、24-12）24　中国

本大会のオープニングゲームとなった日本対中国は、中国14番リ・タオの先制点で幕を開けた。対する日本もすぐさま10番桐生のカットインシュートで対抗。6分までは中国にリードを許すも、5番吉野のディスタンスシュートを皮切りに、4番中程、13番荒川の速攻など、怒涛の6連取で逆転に成功。その後も、中国は日本のアグレッシブな6-0DFを崩せず、21対12の日本リードで前半を折り返す。

後半も運動量の落ちない日本は、GK1番小峰のキーピングや、ターンオーバーから4番中程らが速攻を繰り返し、リードを広げる。一方中国も、長身6番ソンのポストプレーや、3番シャオのディスタンスシュートで対抗するが、日本は主将2番堤を中心にセットオフェンスでも得点を重ね、結果45対24の大量リードでの勝利となった。終盤に数本みられたノーマークのシュートミスは、以降のゲームでは修正したいところである。

［個人得点］仲程：10点、堤・荒川：8点、吉野：5点、楪木・津波古・桐生・水町：3点、大和田・佐藤：1点

■6月30日（月）

日本　27（10-12、17-11）23　チャイニーズタイペイ（台湾）

台湾17番ワン選手に先制を許すが、日本5番吉野選手のディスタンスシュートですぐに得点を奪い返す。台湾ディフェンスのアグレッシブな3-3DFを上手く崩すことができなかった。前半11分に日本がタイムアウトを請求し、セット攻撃の修正を試みるが、前半13分までに2対8と6点のリードを許す。その後、日本は途中交代から出場した11番水町選手のディスタンスシュートから攻撃のリズムを取り戻し、前半を10対12の2点差のビハインドで折り返した。

後半開始早々、日本は10番桐生選手のディスタンスシュートを皮切りに3連取し、逆転に成功した。しかし、日本は、台湾17番ワン選手のディスタンスシュートによる連続失点などにより、後半14分に17対20と3点のビハインドをつけられてしまった。日本は、3番福岡選手をディフェンスに起用することで、ディフェンスに落ち着きを取り戻し、後半20分には、22対22の同点となった。ここから日本は、11番水町選手らの連続得点により、26対22の4点リードし、最終的に27対23のスコアで台湾に勝利した。

［個人得点］水町：7点、堤：5点、仲程・桐生：4点、吉野・荒川：3点、原：1点

■7月2日（水）

日本　53（25-1、28-3）4　マカオ

地力に勝る日本は、マカオを圧倒した。前半開始から日本は、マカオの選手達を9mライン内に侵入させないディフェンスを行い、4番中程選手、13番荒川選手らの速攻で得点を重ね、前半10分にはスコアを10対1とした。その後も、日本は、7番楪木選手、14番原選手を中心とした積極的なディフェンスにより前半終了まで失点を許さず、9番大和田選手、3番福岡選手らの得点で、25対1のスコアで前半を終了した。

後半に入っても日本の堅守は続き、途中交代出場した、6番杉田選手、8番津波古選手、15番鹿児島選手、17番佐藤選手らが得点を重ね、後半9分には、34対1のスコアとなった。後半10分から20分までの間、日本のディフェンスが消極的になり、マカオ88番チャン選手、93番ロドリゲス選手らにシュートを許すが、12番友兼選手の好セーブにより追加の失点を3点のみに免れた。日本は、後半20分過ぎから、再びディフェンスの積極性を取り戻し、残り10分間で12点の連続得点をし、最終スコア53対4でマカオに勝利した。

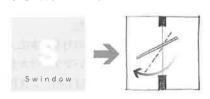
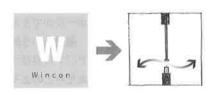
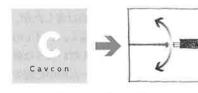
［個人得点］仲程：11点、荒川：9点、津波古：6点、堤：5点、福岡・吉野・原：4点、鹿子島：3点、杉田・水町・：2点、大和田・桐生・佐藤：1点

■7月4日（金）

日本　33（18-7、15-9）16　香港

日本は、アグレッシブなディフェンスから4番中程選手、13番荒川選手の両ウイングの速攻で得点し、前半9分までに7連続得点した。対する香港は、8番ウォン選手の速攻シュート、34番クォオ選手のディスタンスシュートで応戦するも、交代出場したGK12番友兼選手の好セーブにより、得点することができない時間が続いた。その間に日本は、7番楪木選手がディフェンスから走り得点し、チームを勢いづけた。プレイメーカー10番桐生選手の巧みなディスタンスシュートで会場を沸かせ、18対7のスコアで前半を終了した。

後半、日本は、ディフェンスで積極性を欠き、受け身になってしまう場面が多くみられ、香港34番クォオ選手を中心としたバックコートプレイヤーらにディスタンスシュートを打ち込まれた。しかし、この日のGK12番友兼選手は、好セーブを連発し、連続失点を許さなかった。攻撃では、日本5番吉野選手の連続得点や13番荒川選手の7mスローでの妙技により得点を重ねた。終盤、6番杉田選手らの4連続得点もあって、33対16のスコアで勝利した。この試合、GK12番友兼選手の枠内シュートセーブ率は、5割を有した。

［個人得点］仲程：7点、吉野：6点、荒川：5点、堤・楪木・津波古・桐生：3点、原：2点、杉田：1点

■7月6日（日）

日本　35（12-19、23-25）44　韓国

最終戦は韓国との優勝をかけたゲーム。2番堤選手のラインシュートで日本は先制する。だが、日本オフェンスは、韓国のアグレッシブな3-3DFに対応できず、自分達のミスから連続失点してしまい前半10分に2対9のスコアとなった。ここから日本は踏ん張り、12番友兼選手の好セーブや韓国に退場が出たことから、13番荒川選手、4番仲程選手らが連続得点し、前半23分には9対11の3点差まで追い上げた。しかし、引き続き日本のオフェンスは、韓国のアグレッシブな3-3DFを攻略することができず、オフェンスでのミスが続き、逆速攻を許してしまい、前半を12対19のスコアで終了した。

後半、日本は、ようやく韓国のアグレッシブな3-3DFを崩し始め、ノーマークシュート場面を多く作り出したが、韓国GK16番JI選手に阻止され、得点することができなった。その後、日本は、ディフェンスでボールを奪うためにアグレッシブな3-3DFを仕掛けるものの、効果的なディフェンス活動とはならなかった。ここから、得点の取り合いとなり、35対44のスコアで試合は終了した。本大会のベスト7に、日本からは4番仲程選手、8番津波古選手が選出され、本大会得点王には、日本4番仲程選手が選出された。

［個人得点］堤・仲程：7点、津波古・水町：6点、荒川：4点、桐生：3点、棟木・原：1点

女　子

■7月1日（火）

日本　32（19-10、13-15）25　中国

日本対中国戦は、この試合を通して1本目となる13番大山選手のディスタンスシュートが決まり、日本が先制した。ディフェンスでは、積極的なプレスで中国のミスを誘った。そして、前半2分3対0と日本が3点リードしたところで中国が前半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後も中国は日本の積極的なディフェンスを攻めあぐね、日本が前半6分7対1とリードを広げたところで、早くも中国が前半2回目のタイムアウトを請求した。その後、中国も長身ポスト20番のポストシュートで反撃するも、日本13番大山選手、9番眞継選手の速攻などで得点を重ね、GK1番板野選手の好セーブも光り、前半を19対10と日本の9点リードで前半を折り返した。

後半、日本はディフェンスラインを下げたオープンな6-0ディフェンスに変更したが、中国オフェンスに間を割られる展開が増え、後半16分には、日本の3番堀川選手が退場するなど、苦しい時間が続いた。しかし、日本は、中国のミスを逃さず15番高宮選手の速攻などで後半21分までで30対21と9点リードのまま試合は進んだ。後半22分中国4番のポストシュートから3連取されるも、日本は後半25分、29分に10番角南選手の速攻で得点し、最終的に32対25で勝利した。高さで劣る日本は、機動力で中国を圧倒した。

［個人得点］大山：8点、眞継：7点、角南・高宮：5点、河嶋・原：3点、堀川：1点

■7月3日（木）

日本　37（19-3、18-5）8　香港

先制点は2番河嶋がターンオーバーから走り得点。この日の日本のDFは、アグレッシブに仕掛けながらもDFラインをコンパクトに保つように修正されており、リスクを最小限に抑えながらも、香港の攻撃の芽をつぶしていく。さらにこの試合、センターバック3番堀川が躍動。速攻にも参加し得点を重ねる。攻めては、10番角南のポストプレーを起点として、15番高宮、13番大山、8番荒川らが得点を重ねる。開始16分、20分、と相手DFを早くも退場に追い込むが、数的有利の状態にもかかわらず隙を突かれ、22分にこの試合初めての失点を記録する。しかし、大きく崩れることはなく、前半を19対3の日本リードで終了。

後半も攻撃的なDFを継続する日本だが、速攻でのミスが目立ち始める。しかし、交代で出場し、チームを活気づけた17番宇野らの活躍もあり、結果、37対8と危なげなく勝利した。後半の体力的に消耗してきた状況において、速攻でノーマークの選手に展開できないケースなど、スコアには表れないミスが増えてしまったことが、本試合の課題といえるだろう。

［個人得点］角南：6点、河嶋・堀川・眞継・大山・高宮：4点、徳永：3点、藤田・荒川・宇野：2点、川崎・田辺：1点

■7月4日（金）

日本　35(18-11、17-18)29　チャイニーズタイペイ（台湾）

日本は8番荒川のサイドシュートで先制するが、台湾も7番シェイのパワフルなラインショットで同点とする。日本は2番河嶋のゲームメイクから、9番眞継、10番角南を中心に得点。しかし、台湾7番シェイの1対1を起点とした力強い攻撃の前に苦戦を強いられる。前半10分で6対4日本リード、10番角南にチームで3枚目のイエローカードが出され、このあたりから日本ディフェンスは積極性を欠くようになる。しかし、台湾の6－9mをコンパクトに守る6－0DFに対し、日本は2番河嶋、13番大山のディスタンス、10番角南の力強いポストプレー、8番荒川のサイドシュートで得点を重ね、18対11で前半を終える。

後半、前半から続く台湾オフェンスのコンタクトプレーに、日本は体力の消耗がみえてくる。それでも、ボールマンにダブルチームでタイトに守ることを徹底し、ターンオーバーから9番眞継、15番高宮、更にはディフェンスの要である堀川が走り、得点を途切れさせない。更には、前半途中から交代出場した12番GK花村が終始好セーブを連発。チーム全員で何とか粘り、35対29で勝利した。

［個人得点］眞継・角南：7点、大山：6点、高宮：5点、河嶋：4点、荒川：3点、堀川：2点、川崎：1点

■7月6日（日）

日本　23（9-14、14-16）30　韓国

最終戦は、満員の観客の中、日本対韓国の全勝対決。日本は序盤、韓国RW20番LEEのサイドシュートで先制され、更には19番KIMの速攻で0対2とされるも、2番河嶋の切れ味鋭いカットインで得点。一進一退の攻防が続くが、韓国の23番LEEを中心としたセットオフェンスが止めることができず、攻めても相手GKの攻守に阻まれ、16分で4対8とリードされる。その後、日本も9番眞継のディスタンスシュート、10番角南のポストシュートなどで食い下がるも、劣勢のまま前半を9対14の5点ビハインドで終えた。

後半、交代出場した14番田邊のサイドシュート、9番眞継、10番角南の3連取で13分までは3点差のまま食らいつく。しかし、ここでも韓国23番LEEが3連取で差を広げにかかり、後半25分には20対27とされる。日本は15番高宮、8番荒川らが最後まで走って得点するも、終えてみれば、23対30の7点差での敗戦。韓国GKや、CBの存在感は圧巻であり、日本も組織で戦うという考え方の中で、個の技術を高めていくことの必要性を感じさせられたゲームであった。

［個人得点］河嶋：6点、眞継・大山：5点、高宮：3点、角南：2点、荒川・田邊：1点

第19回 女子ジュニア世界選手権

19th Women's Junior Handball World Championship

主　　催：国際ハンドボール連盟
大会期間：2014年6月28日（土）～7月13日（日）
開催都市：クロアチア・コプリヴニツァ、デュゴ・セロ、チャコヴェツ、ザグレブ

■最終順位

優勝：韓国	13位：スウェーデン
2位：ロシア	14位：スロベニア
3位：デンマーク	15位：ブラジル
4位：ドイツ	16位：ポルトガル
5位：フランス	**17位：日本**
6位：ルーマニア	18位：ウルグアイ
7位：ハンガリー	19位：中国
8位：オランダ	20位：アルゼンチン
9位：ノルウェー	21位：アンゴラ
10位：クロアチア	22位：チュニジア
11位：チェコ	23位：カザフスタン
12位：セルビア	24位：コンゴ民主共和国

第19回女子ジュニア世界選手権 団長報告

団長　川上 憲太

第19回女子ジュニアハンドボール世界選手権は、6月28日～7月13日、クロアチアの首都ザグレブ、メイン会場となるコプリヴニツァ、チャコヴェツ、デュゴ・セロのクロアチア北部の四都市で開かれました。

日本はアジア選手権2位（韓国に次ぐ）で出場、予選リーグ4グループの中のCグループでハンガリー、フランス、スウェーデン、コンゴ、ポルトガルとの戦いとなりました。

予選Cグループは、本大会のメイン会場となるコプリヴニツァ体育館で行われました。コプリヴニツァはクロアチア北部に位置する農業を中心としたのどかな田園都市（人口2.5万人位）でアドリア海沿岸の観光地域とは全く雰囲気の違う素朴な街でした。選手団は「我々は勝ちに来た。学んだり経験する為に来たわけではない。結果を出す為に全員一丸となったチームワークと精神力で死力を尽くして戦おう」の言葉を胸に、時差による体調管理も十分にでき、怪我人も無くほぼ万全のコンディションで試合に挑みました。

結果はスウェーデン戦に引き分け、4位同率でありましたが、得失点差で下回り、Cグループ5位となり、決勝ラウンド進出はなりませんでした。試合内容について監督・コーチ・スタッフの詳細報告をご覧ください。2年前の世界ユース選手権でベスト8に入ったメンバーをベースに戦いましたが、各国ともU-18（ユース）からU-20（ジュニア）世代の体力、テクニック、スピードの成長はめざましく、飛び抜けて目を見張る選手はいないものの、粒ぞろいでチーム全員のレベルの高さを感じました。しかし韓国の活躍（本大会優勝）を現地で準決勝（対ドイツ）を観戦しましたが、今後の日本の強化のポイントとしては、佐々木選手に代表されるように、それなりの高さ・シュートスピード・フェイントスピードの選手を鍛え上げることが出来れば、十分に対応可能であると感じました。やはり2019・2020には選手選考を国際対応型に絞り「五輪強化指定選手」に特化した強化が必要であることを痛感しました。

さて、2019に女子世界選手権、2020東京オリンピック・パラリンピックを控える日本としては、本大会の大会運営の視察も今回の団長の役割でありました。会場では、今後おおいに指導をうけるIHF常任理事（COC）レオン・カリン氏にお会いでき、「2019、2020の準備のスタートをしました」と伝えました。カリン氏は「現在2015男子世界選手権、2016リオオリンピックの準備チェックが優先しているが、何か疑問点、質問点があればどんどん遠慮しないで聞いてください。我々は十分サポートします」との事でした。

今回の大会の運営も勿論IHFの主導で行われており、やはりコンパクトでローコストで試合を最優先に進行していました。ジュニアレベルということもあると思いますが、開会セレモニーは無く、ハーフタイムアトラクション等、目立ったパフォーマンスはありませんでした。選手輸送も6チームを4台のバスで練習・試合会場へと輸送、空港出迎えもバスドライバー1人、インフォメーションセンターも無いといったところです。IDカードも試合当日に配布されました。テレビ放映は無く、IHFのネット配信はライブで全試合を行っていました。観客は隣国ハンガリーの応援団、フランスの応援団等々、小都市の関係か地元・クロアチアの試合が無いせいか、100人程度でありました。決勝ラウンドにおいても少ない観客数でした。セルビアの女子世界選手権の時もそうでしたが、IHF規程に基づき、試合中心に運営させるのが最近のやり方であると感じました。TD、レフェリー、代表者会議についてはしっかりIHFが管理し、電子機材トラブルはありましたが、きちんとスムーズに運営され

ていました（EX. テクニカルミーティングのユニフォームチェックもあらかじめリストとなって配られていました）。ホテル・食事については、特に大きな問題はありませんでした。

結果17位（プレジデントカップ首位）に終わり、目標は達成できませんでしたが、選手は日本代表の誇りをもって力強く戦ってくれました。今後の日本代表としての選手個々の成長への努力とそれをとりまく指導者の皆様の更なるご指導・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

たくさんのご声援ありがとうございました。

第19回U-20女子ジュニア世界選手権に参加して　U-20女子ジュニア監督 亀井 好弘

2019年ハンドボール女子世界選手権、2020年東京オリンピックと近い将来、日本で大きな国際大会開催が決定し、スポーツ界のみならず各方面で様々な期待が寄せられ、日本中が活気づいているところです。そのような中、まさにその大会の中心選手となる大きな可能性を秘めた選手たち、そしてチームを全力でサポートしてくださる川上団長及び古橋コーチ、有田ドクター、花岡トレーナーとともに、第19回U-20女子ジュニア世界選手権に出場しましたので、ご報告申し上げます。

1．大会までの準備

関係各位のご協力により、6月の世界選手権までに強化合宿として直前合宿を含め2回実施させて頂きました。チームづくりのコンセプトは、世界の舞台で活躍するために最も必要な要素は何かを考え、「自立した強い個の集団」としました。

強化合宿のトレーニング内容について、その7割程度は、ディフェンス練習に費やしました。世界の大型選手と戦うために、高い位置でのラインづくりから予測的に動き、機動力をいかしてボールを奪い、速攻で得点することとを目的としたディフェンスです。守るというイメージより、ボールを奪いに行くというイメージであり、個人の判断力と組織としての連動性が必要ですが、強化合宿では、そのあたりに一抹の不安を感じながら、クロアチアにむけ成田を出発しました。

2．大会期間中

成田出発から約24時間かけてようやく、試合会場であるザグレブ・コプリヴニツアに到着しました。大会は各大陸予選を通過した24チームを4グループに分け、各グループ6チームの予選リーグを実施し、上位4チームが決勝トーナメントに進出することができました。日本が属するCグループは、ハンガリー、フランス、ポルトガル、スウェーデン、コンゴ共和国、日本の6チームです。

予選リーグ初戦であるハンガリー戦では、守りで高いラインづくりを意識しましたが、機動力及び連動性を表現することができず、逆にディフェンスの間が広くなったことで、身体を預けながらの1対1で得点される場面が多くあり、大敗する結果となりました。以後、フランス戦、ポルトガル戦と徐々に修正されてきたものの、勝ちきることはできませんでした。そして、予選リーグ最後の相手はスウェーデンでした。決勝トーナメント進出のためには、スウェーデンに勝つしかないため、もう一度しっかりチームとして戦い方の確認を行い、試合に臨みました。試合前半は、ディフェンスが機能し速攻で多く得点し7点リードしましたが、後半に入り相手の戦術変更に対する対応の遅れやスタミナ不足から引き分けとなり、決勝リーグ進出を逃しプレジデントカップに参加することとなりました。プレジデントカップとは、各予選リーグの5位、6位の8チームがトーナメント形式で試合を行います。そこで、日本は中国とウルグアイの2試合を接戦で勝利しました。全体的な大会結果は、優勝が韓国、2位ロシア、3位デンマークで、日本は24カ国中17位という残念な結果で終わりました。

大会終了後、今回の大会を「思い出」で終わらせることな

く、貴重な「経験」として今後のハンドボール人生にいかすため、選手ひとりひとりが大会で感じたことと、今後の自分の課題、そしてその課題克服のための方法をレポート用紙に記入しながら、スタッフ全員が選手と個人面談する時間を持ちました。

（選手のレポートから抜粋）

・技術面では日本の方が優れている感じる部分もありましたが、パワーの面で負けていると感じたので、フィジカルトレーニングなど身体づくりに励んでいきます。
・DFで当たってフリースローにしたと思っても、そこから振り切られてしまったり、力づくでねじこんでこられることが多くあったので、コンタクトの強さを身につけます。
・２年間に入っていたシュートも枚にかかる等、世界の厳しさを身体で感じることができたということは、素晴らしいことだということを肝に銘じ、今後のコツコツとひたむきに努力していきます（ユース時代にも世界選手権出場した選手）。

3．大会を終えて

今大会、決して満足のいく結果とはなりませんでしたが、選手たちが体感したことは、今後のハンドボール人生につながり、「自立した強い個」として育ち、国内のみならず世界の舞台で活躍することを期待しています。

最後になりましたが、どんな時も勇気づけてくれた川上団長、選手の心の中に入り細かいアドバイスをして頂いた古橋コーチ、小さな怪我や体調不良に迅速に対応して頂いた有田ドクター、試合や練習のあとも選手の身体と心のケアを夜遅くまで熱心に行ってくださった花岡トレーナーなど、心強いスタッフには、本当に助けられ、心より感謝致しております。また、今回の女子ジュニア世界選手権のために国内の大会日程を調整して頂いたこと、また一生懸命に育てた選手を快く派遣して頂いたこと、そして大会出場における事務手続きや国際大会ならではの急なトラブルにも迅速に対応して頂いた日本ハンドボール協会の皆様など、本当に多くの方々からご支援、ご協力賜り、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

第19回女子ジュニア世界選手権 報告

女子ジュニア代表 河野　萌

2014年6月24日から7月15日にかけて、第19回女子ジュニア世界選手権がクロアチアで開催されました。大会までに二度の合宿を行いましたが、所属の関係で全員がそろうことが少なく不安もある中、一人一人が必ず結果を残すという気持ちで今大会を迎えました。

予選ラウンド初戦のハンガリー戦と次のフランス戦では練習してきたナショナルチームと同じコンセプトの防御がうまくいかず、防御の課題が多く残る厳しい戦いとなりました。次のコンゴ戦では課題であった防御が機能し、インターセプトからの速攻で得点をとることができました。しかし後半になるにつれ相手の1対1に押し込まれることが多く、なかなか得点の開かない苦しい戦いとなりましたが、逃げきる形で初勝利をものにしました。負けられない戦いの続くポルトガル戦では立ち上がりから守って速攻という理想的な形を作りながらも、大事な場面でのミスで点差を縮めきることができないまま試合終了となってしまいました。予選ラウンド最終戦であり、決勝ラウンド進出がかかったスウェーデン戦では守って速攻の形で前半大きく相手を突き放したものの、後半、相手がダブルポストで攻めてくるのに対して修正しきれず追いつかれ同点で試合を終え得失点差で決勝ラウンド進出を逃し、プレジデントカップに進むという悔しい結果となりました。プレジデントカップでの中国戦、ウルグアイ戦ではなかなか点差が開かなかったが最後まで集中力を切らせることなく逃げ切り、17位という結果で今大会を終えました。

この大会を通して多くの課題が残りながらも試合を重ねる中で成長していけたのではないかと思います。前回のユース世界選手権に引き続いて結果を残すことはできませんでしたが、この結果と悔しさをばねに一人ひとりが所属に帰ってレベルアップしていきたいと思います。今大会に出場するにあたり、応援していただき支えてくださったたくさんの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

戦　評

■6月28日（土）：予選リーグCグループ1戦目

日本　19（10−20, 9−17）37　ハンガリー

立ち上がりハンガリーの強烈な1対1からのシュートを連発で浴びディフェンスが目を覚ます。日本は深田・佐々木のミドルが決まり、ついていく。しかし相手の体重をかけたオフェンスに押し込まれる形が多く、徐々に点差が開く。4対9となった13分にタイムアウトを取り、ディフェンスの確認をしディフェンスからの速攻が出だす。ハンドリングのミスがなければ追いつく勢いであったが徐々に離され、前半を10対20で折り返す。

後半は両チーム退場者を出した状態でスタート。三田、深田、岩崎のカットインや速攻で勢いをつけ、ディフェンスも本来の6-0オープンの形が機能し始める。10分は互角のゲームになるが、その後は徐々にあけられていく。課題をディフェンスに絞り、反省と修正をし、明日のフランス戦に臨みたい。

［個人得点］佐々木：6点、深田・岩崎・三田・田村：3点、岩渕：1点

■6月29日（日）：予選リーグCグループ2戦目

日本　22（9−16, 13−17）33　フランス

前半、田村のサイドシュートで先制、その後永田、佐々木のミドルで11分には6対3とリード。GK水落の再三のセーブもあり、20分までは8対7とリードを保つ。課題であったディフェンスがよく動き、フランスのミスを連発させたことが大きい。メンバーチェンジも早めの対応で体力の消耗を防ぐが21分から26分にかけ、オフェンスミスなどからフランスに走られ7連打を浴びる。調子のいいディフェンスが高くなりすぎた面もあり一機に7点差をつけられ前半終了。

後半、日本のディフェンスに慣れたフランスは縦の突破を中心に圧力をかける。2段、3段と縦にくるオフェンスに撥ね跳ばされる形で得点される。一方日本は6−0でピストンの激しいフランスディフェンスに手を焼き10分には11対25とあけられる。その後日本はメンバーを入れ替えながら1対1でフランスディフェンスを退場に追い込み、対等に戦えたが22対33でブザー。1試合を通じて好調だったGK水落とミスを誘う動きのあるディフェンスにもっと磨きをかけ、可能性を広げていきたい。

［個人得点］佐々木：10点、田村：4点、岩崎・河野：2点、永田・江藤・シン・三田：1点

■7月1日（火）：予選リーグCグループ3戦目

日本　30（16−10, 14−17）27　コンゴ民主共和国

本大会初出場、北原のミドルから秋山、北原で3対1。8分には3対3に追いつかれるが深田、佐々木がディフェンスで頑張り、速攻を中心に20分には13対6とリードを広げる。終盤には両チーム退場者を出す展開で前半を16対10の6点差で折り返した。

後半は日本が退場者を出した状態でスタート。ディフェンスで唯一高さのある永田が前半2回の退場を受けており温存。立ち上がりからコンゴに4連続得点を浴び、4分で16対14に。タイムアウト後、深田の強烈なロングでペースを取り戻し、9分には22対16の6点差に戻した。コンゴは左バックとセンターが個人技で割り込むがフリースローの繰り返しでなかなかマイボールにできない。長いディフェンスで体力を消耗しだした日本は17分で25対22と3点差まで追いつめられる。その直後、日本は7mTとコンゴの退場を得、4点差に。しかし2分間のチャンスを生かせず一進一退が続く。残り5分には29対25としからくも逃げ切る形で初勝利をものにした。後半のディフェンスは壁を破られることが多く、コンゴの9番と13番の2人に11点とられるなど、今後に課題を残した。

［個人得点］佐々木:7点、岩崎:5点、三田･秋山:4点、田村:3点、北原:2点、永田・深田・江藤・星野・河野：1点

■7月3日（水）：予選リーグCグループ4戦目

日本　28（15−21, 13−13）34　ポルトガル

立ち上がり、気合の入ったディフェンスから7本の速攻を決め、15分には10対10の同点。その後、岩崎、岩崎、深田の3連続退場を出されるが佐々木、田村、佐々木が決め、22分には13対14の1点ビハインド。25分には三田が決めて14対16の2点差で追いかけるが、ミスなどから5連取され前半を15対21で折り返す。

後半、早めに点差を詰めたい日本は、守って速攻の形を作りたいが10分で20対15、15分には21対27と6点差に戻される。このあたりから相手チームの疲労とディフェンスがようやくマッチし、田村、佐々木、田村、三田、深田と5連取。20分には26対27の1点差に追いつく。24分、27対29でカットインした佐々木がこの試合5本目の着地を取られ、ノーゴール。直後に永田が退場、7mTで27対30。秋山が決めて26分には28対30とするがパスカットにいった三田の手が相手の顔に当たり退場。その後は焦りから4本続けてオフェンスミスで4連取され、28対34で試合終了となった。ようやく日本の目指す

守って速攻が出せたゲームで、体を張ったディフェンスができた。予選リーグ最後となるスウェーデン戦に向け、メンタルも含め万全の準備をし、決勝ラウンドに駒を進めたい。

[個人得点] 田村：9点、佐々木：7点、三田・秋山：4点、深田・岩崎：2点

■7月5日（土）：予選リーグCグループ5戦目

日本　26（16−9, 10−17）26　スウェーデン

決勝ラウンドに行くには勝つ以外ない日本チームは練習してきたディフェンスでスウェーデンのミスを誘い、15分までに8本の速攻を含み12対4とリードする。その間スウェーデンはシュートが6本と完全に6−0オープンにはまっていた。そこからペースを取り戻したスウェーデンは23分までに13対8と詰めてくる。この不気味な時間帯に佐々木が連続ミドル。深田が7mTを獲得し佐々木が決め16対8。スウェーデンも1点返し16対9で前半を折り返しハーフタイムへ。

後半開始はスウェーデンが2連取するが日本も2連取。5分には佐々木が自ら得た7mTを決め19対12とする。ここからパスカットを狙う日本のディフェンスが裏目に出てスウェーデンが3連取。秋山がサイドシュートを決め10分には20対15となるがスウェーデンはダブルポストを多用し、4連取で1点差に迫る。ディフェンスを建て直し、速攻が出だした日本は三田、深田の7mT獲得で息を吹き返す。しかし20分、ついに22対22の同点にされる。23分にはこの試合初めての1点ビハインド。深田の7mT獲得を佐々木が沈め24対24。深田が決め25対25。ここで佐々木が退場になり26対25。一人少ないところで三田が同点ゴール。勝たなければならない日本はマンツーマンを仕掛けるがマイボールにできずにタイムアップ。GK水落がサイドシュートを7/10セーブと安定していただけに終盤、松脂で撥ねないボールのハンドリングミスが痛かった。

[個人得点] 佐々木：12点、岩崎・秋山：5点、田村：2点、深田・三田：1点

■7月7日（月）：PresidentCup17-20位決定

日本　28（15−12, 13−15）27　中国

アジア同士の試合。日本は守って速攻。中国は身長差を生かしてポストを狙う攻撃で13分には5対5のイーブン。しつこいディフェンスを嫌がる中国に対し日本は追い込みながらミスを誘い、速攻を中心に18分には9対6とリード。21分には13対8とこの試合最大の5点差にする。中国はようやくポストに落ち出し前半を15対12の3点差で終了する。

後半に入ると中国はディフェンスの裏を突く作戦で右サイドから得点をあげる。3点のリードも10分には18対18で並ばれる。ここから両チーム、点の取り合いから中国が抜け出し18分21対24と中国が3点リードする。日本はこの試合好調の深田が2連続、秋山、田村と決め、25分25対25に追いつく。26点目は中国が先。この後、後半終盤から起用した馬場がよくあたり、速攻を繰り出す。田村、田村、三田の3連続速攻で29分28対26の2点差に。すぐに佐々木が退場となり1点差。残り50秒の攻撃で40秒攻め相手ボール。速攻を岩崎、続いて永田が退場で止め、残り2秒。からくも逃げ切り勝利をものにした。日本の速攻の点数は12点。中国の速攻は0点。ポストは日本2点、中国8点とプレイの特徴が表れていた。

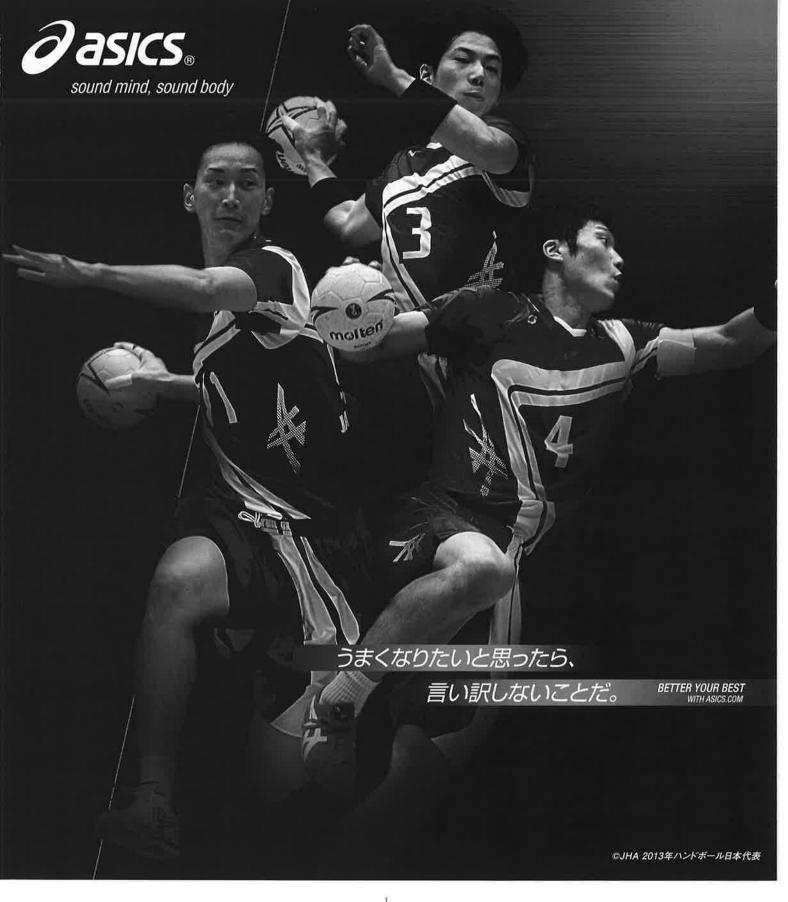
[個人得点] 深田・田村：7点、佐々木：5点、秋山：4点、岩崎：3点、三田：2点

■7月9日（水）：PresidentCup17, 18位決定戦

日本　29（16−14, 13−14）28　ウルグアイ

前半9分までに水落のセーブ、速攻、7mTなどで日本は6対3とペースをつかむ。ウルグアイも11分には7対6と追いついてくる。ここから日本は15分までに速攻4本を含む5連取で11対6と点差を広げる。20分まではウルグアイのエース4番にディフェンスを割られ一進一退が続くがシンが速攻を決め、14対9とする。その後やはり4番に崩され、27分には15対14に迫られタイムアウト。田村が1点を返し前半は16対14で終了。佐々木が6点、ウルグアイの4番が5点と両チームエースの点の取り合いになった。

後半は佐々木の2回目の退場時間が残り、少ない人数でスタート。警戒している4番の4点を含む5連取を浴び、16対19と一気に逆転されタイムアウト。ディフェンスの確認をし、ウルグアイを追いかける。佐々木、佐々木、岩崎で得点するがウルグアイも譲らず、10分、22対19と3点差が縮まない。ここからシンが速攻を2本連続で決め、佐々木も7mTを決め14分、22対22の同点とした。23, 24, 25点はウルグアイが先行し日本が追いつくパターン。しかし日本は長谷川の速攻で26点目を先行。すぐに追いつかれるがここでウルグアイは2人連続退場。シンが獲得した7mTを佐々木が決め、27点、三田がステップを決め、28点、27分には田村がサイドを決め、29対27の2点差にする。29分には1点返されるが、最後のシュートも水落が止め、29対28の1点差で勝利した。

[個人得点] 佐々木：11点、田村：6点、秋山：4点、シン：3点、三田：2点、永田・岩崎・長谷川：1点

第19回ヒロシマ国際ハンドボール大会
兼 日韓定期戦 2014　*The 19th HIROSHIMA INTERNATIONAL GAMES*

開催期日：平成26年6月13日（金）～15日（日）
会　　場：広島市東区スポーツセンター
参加チーム：男子2チーム：韓国代表、日本代表
　　　　　　女子4チーム：韓国代表、SKオーフス（デンマーク）、日本代表、広島メイプルレッズ
主　　催：（公財）日本ハンドボール協会・中国新聞社

《最終順位（女子）》
優勝：韓国代表　**2位：日本代表**　3位：広島メイプルレッズ　4位：SKオーフス（デンマーク）

《個人表彰》
最優秀選手賞　優秀選手

柳　殷僖（リュウ・ウンヒ）：韓国No.11

金　温児（キム・オナ）：韓国No.7

石立真悠子：日本No.20

増田寛那：メイプルNo.2

Jensen Line Uno：SKオーフスNo.93

総　評

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

1994年の第12回広島アジア大会のメモリアル大会として翌年から開催されているヒロシマ国際大会も今年で19回目を迎えました（2003年はSARS騒動の為中止）。

今回は9月の仁川アジア大会などで全日本チームのスケジュール調整が難しいということもあり男女日韓定期戦も併せて開催ということになりました。大会準備中の出来事としては、日韓定期戦とヒロシマ国際を兼ねるのは国を代表するチームとクラブチームの対戦というのはいかがなものかと言った声もありましたが、韓国と広島とのこれまでの永い交流もあり快く同意をいただくことが出来ました。

2020年の東京オリンピック開催決定後、初めての国際大会でもあり、強化を計る日本チームにとっても重要な位置づけの大会であったと言えます。東京オリンピックでの上位入賞を目指すためには、来年のリオデジャネイロオリンピックアジア予選には何としても勝たなくてはならない日本チームでもある訳です。

今回、男子は日本代表・韓国代表、女子は日本代表・韓国代表・デンマークのSKオーフスそれに地元の広島メイプルレッズが参加しました。

試合結果は別表の通り男女とも韓国が勝ちましたが、最終的な点差はともかく、いずれの試合も白熱した試合が繰り広げられました。

新生全日本の船出としてはまずまずのスタートといえましょう。本格的なハンドボールシーズンインの前でしたが、2日目などは東区スポーツセンターの定員をオーバーし立見も出るほどの盛況でした。

特に今回は日韓定期戦ということもあり、韓国から韓国ハンドボール協会の役員25名及び応援団として約30名の方が韓国より来広されました。

広島の韓国領事館、民団からも応援団が大挙動員され大韓民国（テーハミング）の大合唱に圧倒されました。

最終日には例年通り試合終了後、広島市内のホテルで表彰式・サヨナラパーティーを行いました。会場にはオタフクソース㈱さんの提供による広島風お好み焼の屋台を出していただき、選手達も舌鼓を打ち広島の夜を満喫していたようです。

最後に大会を開催するに当たり広島県、広島市をはじめ各方面から多大の協力協賛をいただいたことに感謝いたします。特に今大会の各ゲームをネット配信して下さった湧永製薬㈱様には改めてお礼申し上げます。

女子日本代表

監督　栗山 雅倫

ヒロシマ国際大会を振り返って

「おりひめジャパン」の愛称を頂いて以来、瞬く間に半年が過ぎ去りました。お陰さまで、各地にて新たな愛称で温かく迎えて頂くなど、来年に控えるオリンピック予選に向けて、チームの内外ともに日に日にボルテージが上がっていることを肌身で感じております。

さて、「おりひめジャパン」としての戦いは、昨年末にセルビアの地で戦った世界選手権大会以来の大会として、今年もヒロシマ国際大会の機会を頂き、ご関係の方々はじめ沢山のご声援を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。今年のヒロシマ国際大会は、日韓定期戦を含む３試合の貴重な機会を頂くことが出来ました。そして今回の大会は、来年のオリンピック予選に向けて、是が非でも幅を広げる年に致したく、若手の起用、新戦術の採用を計画する中で、またとない機会となりました。

大会を迎えるまでの準備と致しましては、４月初旬の新メンバーを迎えるためのメンバーを拡大した合宿を経て、５月下旬より強化合宿を組ませて頂き、新年度の構想に沿ったトレーニングを展開致しました。新メンバーを迎えての強化は、あらためて戦術的な共通理解のために時間を要することなどもありましたが、新戦力のもたらす勢いは、チームにとって大きな追い風になったと捉えています。

６月13日から始まった大会は、初戦、広島メイプルレッズとの対戦となりました。宋海林を擁し、豊かな攻撃力を持つメイプルレッズは、若手を加えた「おりひめジャパン」にとって、手強い相手ながら、打倒韓国を目指すチームとしては、格好の相手となりました。北國銀行から選出の石野・角南は、スタートからの起用にこたえ、機動力あふれるゲーム展開を目指すチームに、あらたなインパクトを示してくれました。ゲームスタートは新メンバーの勢いもあり、ナショナルチームがリードする展開となり、その後、経験値の高いメイプルレッズに、したたかに追いかけられながらも、経験組が要所を締めるなどして、勝利を収めることが出来ました。

続く第２戦は、デンマークのトップリーグ所属チーム、SK オーフスとの対戦となり、これも新メンバーを中心に国内では通常得難い機会を頂くこととなりました。SK オーフスは、旅の疲れもあってか、前半思うようにゲームが展開出来なかったこともあり、日本チームのスタートダッシュが際立ったゲームとなりました。しかしながら、後半、日本チームが様々にメンバーを替えていく中で、SK オーフスは持ち前のパワーとスピードを活かした攻防で、若手を中心とした構成の日本チームに対して、本場ヨーロッパの強さを十二分に示す展開となりました。結果は辛くも日本チームが逃げ切

る格好となりましたが、チーム全体の底力の向上に向けて、課題を明確に残すゲームとなりました。

最終戦は、日韓定期戦となり、白熱したゲーム展開となりました。ゲーム序盤、中心選手のキム・オナの復帰もあり、完成度の高い韓国チームに主導権をゆるし、苦しい展開を予想させるものとなりました。我々日本チームは、ここまで培ってきた機動的なスタイルに没頭することを確認し、徐々にペースを取り戻し、最大５点差を許したものの、前半終了時にはなんとかイーブンのスコアに持ち込み、後半へとつなげました。後半、攻撃力に上回る韓国と、攻撃的な防御から速攻につなぐ日本チームとの戦いは一進一退の展開となりましたが、２点差での敗戦を喫しました。多くの皆様のご期待に添えず、申し訳ございません。これを糧に更なる飛躍を誓いたいと思います。

さて、大会前の選手の様子は、主力を怪我で欠き、若手にとっても主力としてぶっつけ本番を余儀なくされる戦いを迎える怖さは確かに抱えていたように感じました。今年は９月中旬からのアジア競技大会、１２月にはアジア選手権大会と、来年につなぐ大事な大会を立て続けに戦うチームにとって、やはり貴重な機会であったことを、選手一同強く認識していたと感じています。課題は少なくありません、それだけ世界のトップゾーンに存在を示し続けてきた韓国を倒すのは、容易なことではないと思います。しかしながら、課題の内容は確実に変化してきており、その変化の一つ一つが我々の可能性であると確信致しております。

大会後、デンマークから迎えたSK オーフスと、味の素ナショナルトレーニングセンターにて、合同合宿を開催させて頂きました。合宿では、両チームのスタッフが互いのチームに指導するなど、強化交流を深めることが出来ました。グローバルスタンダードなチーム作りをこれからも益々加速させ、世界の強豪と渡り合うことが普通となる、成熟したチームを作るべく、チーム一同精進して参ります。オリンピック予選は来年ですが、時間は止まりません。チーム発足から数える日々より、オリンピック予選までの時間が短くなりました。迷うこと無く邁進致したいと思います。皆様方の益々の叱咤激励をお願い申し上げます。

キャプテン　本多　恵

今年度のヒロシマ国際大会は昨年の世界選手権からメンバーの入れ替えもあり、若返ったチームでのスタートとなっていました。

昨年の日韓戦では、「攻撃を攻撃する」という DF をコンセプトに、先手を取ったゲームをすることができました。

今年は近い試合にアジア大会、アジア予選はありますが、目先のことよりも来年のオリンピック予選に照準を当てて「プレーの幅を広げる」ことを第一にトレーニングに励んできました。その一つとして、韓国戦のスタートから仕掛けたのは変則の 3-2-1DF でした。試合で試した時間は短かったのでまだまだ課題はありましたが、幅を広げる、新たに先手を取る材料という意味ではプラスになったと思います。OF では新たにチームに合流した選手もコートに立ってプレーしたこと、交代の選手が流れを引き寄せたことなどプラスの部分も多く見られました。しかし結果としては２点差での敗戦。ラスト１分ここを決めたら同点という攻撃で一点を取りきれなかったことが国際試合では勝敗を大きく左右するということを改めて痛感した瞬間でした。

今年度はアジア競技大会、アジア予選とアジアとの戦いが続きます。オリンピック予選に繋がるゲームを、そして惜しいではなく勝ちきるゲームができるよう、粘り強くチーム力を上げていきます。

男子日本代表

キャプテン　岸川英誉

日韓戦を終えて

新体制で初めて向かえる公式試合である日韓戦にあたり、「判断力の早さ」と「スピードの速さ」の２つのテーマを持って全日本男子チームは臨みました。特に強化合宿で取り組んで来たアグレッシブな DF から効果的に速攻で得点することが出来るようにトレーニングして準備をしました。

結果としましては 22 対 24 と悔しい結果になりましたが、今まで合宿で行なってきたアグレッシブな DF や速攻で効果的に得点を取ることが出来、練習の成果を出すことが出来た場面もありました。特に DF では全員が積極的に動きながら、抜かれても隣の選手がフォローへ行きシュートコースを限定させてキーパーが止めるイメージ通りの組織的な DF が出来た事は大きな成果でありました。

ですが、その反面で韓国のプレス DF に対して、セット OF で効果的に得点が出来ず、自分達のミスから逆速攻で得点を取られてペースを崩してしまう場面が多く出てしまいました。また、決めなくてはならないノーマークシュートを決め切れず、韓国代表に流れを持っていかれる場面も試合を通して多々ありました。

DF が機能していたことで前半を２点リードで折り返し、優位に試合を運ぶ事が出来たものの、後半の退場から追いつかれて韓国代表に流れを持っていかれてしまった場面から、もう一度日本代表のペースに流れを持って来れなかったのが、今回の大きな敗因であったと感じています。

試合の勝負所でも自分達のプレーを出し、苦しい展開の時にこそチーム全員で踏ん張っていく勝負強さとチームワークをこれからもっと追究していかなくてはならないと感じました。今回の悔しい結果を真摯に受け止め、反省することで明確になった課題をトレーニングで埋めて、９月から行われるアジア大会へ繋げられるようにしていきたいです。

最後になりましたが、ご声援頂いた皆様、ならびに今大会の開催にご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。アジア大会優勝、リオデジャネイロの切符獲得を目標にこれからも頑張ってまいりますので、変わらぬご声援宜しくお願い致します。

戦評

女子

■6月13日（金）

日本代表　27（12-9, 15-13）22　広島メイプルレッズ

メイプルスローオフで試合開始。3-3ディフェンスでプレス気味に守る日本代表が、速攻で優位に立ち、前半10分で4対2とリード。メイプルも食い下がるが、シュートミスが目立ち、点差が詰まらない。メイプル新人松村のサイドシュートが決まり20分過ぎで、6対5と一進一退の攻防が続いた。膠着状態の25分過ぎ日本代表東浜のロングシュート等が決まり10対6と4点差に開いた。メイプルはディフェンスの足がよく動き、速攻でチャンスをつかむが、ノーマークシュートの確立が悪く追いつききれず、12対9と日本代表のリードで前半を終える。

後半は立ち上がりから激しい攻防が続き、一進一退となったが、6分日本代表石立の退場でメイプルがノーマークを作って、1点差に迫る。が、追いつききれずにいるところを、日本代表角南の4連続得点で再び3点差と突き放した。20分ころから攻防が激しくなり、お互いに退場者が続出し、ゲームが大味になりかけた。退場者が出たところをついてメイプルが2点差まで迫るが、肝心なところでシュートミスが目立ち、東浜や石立が確実にポイントを重ねた日本代表が、27対22と5点差で逃げ切った。

［個人得点］日本代表石立：10点、角南：5点、東濱・田邉：3点、本多・横嶋（か）：2点、横嶋（あ）・原：1点

■6月14日（土）

日本代表　22（12-7, 10-13）20　SKオーフス

SKオーフスのスローオフで試合開始。両チーム、ボールが手につかず、ミスが目立ち思うようにシュートで終えることができなかった。ゲームに流れができたのが、日本代表が警告ペナルチィーを獲得し先制。それを期に日本代表に勢いがでて3点差まで開いた。SKオーフスが勢いを抑えようと、3分過ぎと早くにチームタイムアウトを取った。その後も1点を失うSKオークスだが、タイムアウトが功をそうしたのか、1点差まで追いつき日本代表の警告プレーを誘った。しかし流れを掴みきる切ることができず、19分過ぎにSKオークスが2回目のチームタイムアウトを取った。組織的にディフェンスをして速いオフェンスをしかける日本代表にSKオークスは単発的なオフェンスとなり点差が5点開き、12対7日本代表優勢で前半を終えた。

後半開始、前半とは動きの違うSKオーフス。体格差を生かしたロ

ングシュートと果敢にディフェンスの間を攻めるプレーが目立った。しかし日本代表は動じなかった。点差が縮まることなく9分まで点差は拮抗していた。追いつけないいら立ちがプレーにも表れ、SKオークス4番が退場した。点差の縮まらないSKオークスが18分過ぎに最後のタイムアウトを取った。しかし試合の流れは変わらず、23分にはリズムに乗りきれない日本代表がタイムアウトをとった。試合終了間際にようやくSKオークスに流れが来た。日本代表のミスからワンマン速攻。キーパーの好セーブもあり勢いに乗り3連取。しかし時間がなく追いつくことができず、22対20で日本代表が逃げ切り試合を終えた。

［個人得点］横嶋（か）・石立：5点、田邉：3点、角南・相澤・東濱・池原：2点、勝連：1点

韓国代表　30（13-16, 17-5）21　広島メイプルレッズ

昨日、日本代表を相手に接戦を演じ、惜しくも金星を逃した地元広島メイプルレッズは、強豪韓国代表との一戦。出だしリズムよくボールが動き、2連取したメイプルに対し、韓国代表はメイプルの高いディフェンスに苦しみながらも、高さと強さで対抗、前半7分までメイプルリードの3対2と接戦。中盤を迎えてもディフェンスが機能しているメイプルはGK田口の好セーブもあり主導権を譲らず、13分まで7対6とリードを守る。ここから守りの足が止まった韓国代表からミドル、ポストと連続3得点を挙げたメイプルが一気に加速、15分過ぎまでに10対6と4点差に、ここで韓国代表はたまらずタイムアウトを請求した。タイムアウト後鋭い1対1から2連取して追い上げを図りたい韓国代表だが、攻守ともリズムが悪く、点差を詰めることができず、23分まで13対9と4点差のままゲームが進んだ。終盤に入っても流れは変わらず、前半を16対13のメイプル3点差リードで折り返した。

後半に入り、攻撃にリズムが出てきた韓国代表は早々と5分過ぎには18対17と逆転に成功した。疲れの見え始めたメイプルに対し、韓国代表は地力を発揮、攻めあぐねるメイプルをしり目に、速攻で着々と加点、13分過ぎまでに23対18と5点差に広げ、ゲームの主導権を握った。メイプルはたまらずタイムアウトを請求、その後得意のフォーメーション攻撃で活路を見出そうとするが、シュートが決まらず苦戦、GK田口の好セーブに助けられながら中盤に入る。粘りを見せたいメイプルだが、ことごとくシュートを阻まれ、得点ができない、終盤に入ってもじりじりと点差を開けられ24分には28対19と9点差に広げられた。最後まで必死の戦いを見せたメイプルだが、力及ばず韓国代表に屈した。最終スコアは30対21。

［個人得点］増田：9点、宋・高山：4点、松村：3点、大前：1点

■6月15日（日）

日本代表　22（10-10, 12-14）24　韓国代表

男子に引き続き女子の日韓戦、実力伯仲の両チーム。日本代表は“スーパーセル”で積極的なディフェンスを、韓国代表は逆に6－0と高さを活かした守りで対抗する。出だしから気合十分の両チームだが、硬さからか5分過ぎまで日本代表は得点なし、韓国代表は速攻

などで得点し、3対0とリードを奪う。日本はようやく8分に初得点、落着きを取り戻したか、ここから徐々に24番原の連続得点で3対6と追い上げる。攻撃でリズムが出てきた日本は、守りも機能し始め、韓国に得点を許さない。20分まで6対7と1点差に詰め寄る。終盤に入っても一進一退の攻防は続き、26分40秒に日本が藤間の好セーブから速攻で得点を挙げ9対9の同点とする。白熱した展開の中10対10で前半を折り返した。

後半も出だしから激しい攻防が続く、両チーム退場が相次ぐ中、7分過ぎには日本が13対12と1点差のリード。韓国代表も負けじとポスト、サイドから得点を挙げ14対13と逆転し一進一退の攻防が続く。中盤に入り、攻めあぐねる日本に対し、韓国は速攻から得点を挙げ、18対16と2点差をつけたところで日本がタイムアウトを請求。落着きをとり戻した日本は、粘りを見せ、韓国代表についていく。22分過ぎまで21対19と得点差は変わらず、終盤を迎える。25分には7mスローを原が決め1点差に。すかさず韓国7番がうち返し、2点差と息詰まる展開に。残り90秒を切ったところで韓国代表がタイムアウトを請求。直後のノーマークシュートをGK飛田がセーブ、日本1点ビハインドで残り48秒でタイムアウトを請求、最後の攻撃にかけるもミスから最後は7mスローをねじ込まれ万事休す。男子と同様2点差で惜敗した。最終スコアは24対22で韓国代表が勝利した。

［個人得点］本多：5点、原：4点、石立：3点、石野・横嶋（か）・田邉・池原：2点、角南・相澤：1点

広島メイプルレッズ 32（16-11, 16-14）25 SKオーフス

メイプルはスローオフから47秒後に松村のサイドシュートが決まり先取点を奪う。一方オーフスもレストリーネのサイドシュートですぐに追いつく。その後はメイプルのキーパー田口のナイスセーブと宋のミドルシュートで序盤はややメイプルが押し気味で試合を進める。

中盤も試合の流れは変わらず、増田、宋が切れの良いシュートを次々に決め17分には10対5とリードを広げる。オーフスはセットオフェンスで攻めの幅が中央に寄り過ぎてなかなか点差を詰めることができない。メイプルはディフェンスの詰め遅れでオーレンドルフのロングシュートやマークミスでブルスホイのポストシュートを許すも正確なコンビプレーで着実に加点し主導権を渡さない。また、速攻の戻りも速く追い込んだ状態でシュートを打たせ田口が止めるパターンに持ち込み得点を封じた。前半は16対11のメイプル5点リードで折り返す。

後半もオーフスのディフェンスの隙を突きメイプルは大前のボール回しから増田のロングシュートや門谷のサイドシュート、高山のポストシュートと多彩な攻撃が次々に決まりリードを広げていく。オーフスも必死の反撃に出るがシュートの精度が悪くゴールネットを揺らすことができない。メイプルはオーフスのシューターの焦りを誘い、パスミスを速攻に結び付けて加点し試合の流れを一気に引き寄せた。後半16分過ぎには29対19と10点差をつけて試合を決定づけ、20分過ぎには若手のメンバーに変える余裕も見せた。結局スピードで勝るメイプルが、32対25の7点差でオーフスを下した。

［個人得点］増田：8点、宋・松村・笠木：5点、門谷・高山：4点、大前：1点

男　子

■6月14日（土）

日本代表　22（13-11, 9-13）24　韓国代表

リオ五輪出場を目指す日本は宿命のライバル韓国を迎え、新生松井ジャパンの負けられない戦いが始まった。先制したのは韓国。3-2-1ディフェンスを攻めあぐねる日本のあせりを誘い速攻で先取する。一方日本も負けじと高智のミドルが立て続けに2本決まり逆転する。すぐに韓国は岸川の退場時に追いつき、その後は両キーパーのナイスセーブによって引き締まった試合となった。韓国は日本のパスミスをつき4対2とリードするも日本も高智の3連続シュートとポストのスカイで追いつく。18分には6対6の同点、その後も一進一退の展開が続くが日本は23分過ぎに信太の粘り強いポストシュートが決まり、再び9対8と逆転する。その後は韓国のキムミョンのポストに苦しむものの野村、岸川、石川が要所でシュートを決め13対11の日本の2点リードで折り返す。

後半の出だしは日本ペースで進んだが、韓国は信太の退場に乗じてサイドシュートを確実に2本決めて追いつき、ついにチョンハンのシュートで16対15と再逆転する。韓国はリーの再三にわたる好キープで手に汗握る白熱したゲームとなる。20分過ぎに1点リードされた韓国はタイムアウトを取ったのちペナルティを決め20対20の同点に追いつく。その後コキョンスのカットイン決まり韓国1点リード。試合は終盤まで1点差の緊迫した展開が続いたが残り20秒で韓国は勝利を決めるポストシュートを決め24対22で韓国が定期戦を制した。

［個人得点］高智：4点、小室：3点、小澤・渡部・石川・信太・元木・岸川：2点、成田・野村・千々波：1点

REPORT 第19回ヒロシマ国際大会（兼日韓定期戦2014）

6月13日から3日間にわたり、広島市東区スポーツセンターで開催された。女子は日本代表のほか韓国代表、SKオーフス（デンマーク）、広島メイプルレッズの4チームが参加、1回戦相当たりリーグで行われた。日本代表は韓国代表に敗れ、2位となった。国内デビューとなった松井ジャパンは韓国代表と対戦。松井ジャパンになり初めての公式戦だったが、惜しくも2点差で敗戦。しかし、男女ともに全員で戦いきり、次に繋げることが出来る内容となった。

■男子ナショナル、国内デビュー黒星スタート

韓国男子代表　24（11－13、13－9）22　日本代表

松井ジャパンとなり、何度か合宿をしてきた約2か月。まだ完全ではないが、強豪韓国に対しやってきたことが何処まで通用するか、また各チームで力を蓄えてきたナショナルが、待ち焦がれた国内でその姿を披露する日がやってきた。

「早くて速いハンドボール」をキャッチフレーズにしてきた松井監督。高い6－0DEFの機動力を活かし、さらに男子ナショナルのキーマンとなるGK甲斐の好セーブにより「守れたから走れた」、今大会はよくできたとコメントした。ただSET OFEの練習は大会直前にしか練習をしていなく、選手に任せていたとのこと。全メンバーに新たな選手も加わり、選手それぞれが自覚し、戦うことのできた内容だったが、惜しくも敗れた。しかし9月のアジア競技大会、そして、アジア最終予選に向け、今後どのように飛躍していくのか期待できると思えた。

■女子ナショナル、全員で戦う

日本代表　27（12－9、15－13）22　広島メイプルレッズ
日本代表　22（12－7、10－13）20　SKオーフス
韓国女子代表　24（10－10、14－12）22　日本代表

新しいメンバーを迎えての今大会。代表監督の栗山監督は常に日本が将来的に持ち続けなければならない大きなコンセプトとしてトータルモビリティという言葉を掲げている。モビリティ＝機動性、トータル＝身体全身の使い方が瞬時に機動的に、判断の機動性、心理的な機動性。意思の確認ができるチーム、悪いプレーがでても改善することができる。日本はトータルな機動性を武器にして世界に通用する土台をつくっていくとコメントした。

粘ることのできた今大会。幅を広げたコンビネーションをしていない中での勝ち、粘りは大きい。まだ相手に対する見極めが出来ていないため、チームの底辺をあげていきたいとキャプテン本多選手はコメントした。優秀選手に選ばれた石立選手は代表として責任の自覚、またプライドを持ち、泥臭い試合ができた。個々の判断、自立が今後も求められていく、そのためには自分達のミスを改善し、全員でカバーしていきたいとコメントした。

劣戦時、原（三重・BP）の迷いのないシンプルなプレー、石野（北國・BP）の機動力のあるDEFおよび切れ込みカットイン、石立の潜り込めるフェイント力などがみられた今大会。選手の個を活かしながら、今後どんな動きになるのか楽しみである。（＊韓国代表は集合写真を撮影しませんでした）

■トピック

【応援団】日本代表の試合、および国際試合がみられる大会。広島県は男子・湧永製薬、女子・広島メイプルレッズを抱えているが、はるばる韓国から応援団も来ていました。14日のスタンドはファンと応援団がいっぱい。日本リーグや他の大会においてもこのように多くのファンが詰めかけ、ハンドボールの面白さを伝えられればと思う。

【ちびっ子選手】日本では今やおなじみになった感がある選手入場時のちびっ子達。今大会では広島で活躍している子ども達は憧れの選手たちと手をつないで胸を張って登場した。わずかな時間帯ではあるが、試合前に集合写真を撮ったりして良い思い出になったようだ。

（機関誌委員・長谷川千紗）

高松宮記念杯 第４回 全日本社会人ハンドボール選手権大会

主　催：(公財) 日本ハンドボール協会
　　　　全日本社会人ハンドボール連盟
大会期間：平成 26 年 7 月 2 日（水）～ 7 月 6 日（日）
会　場：中村スポーツセンター、枇杷島スポーツセンター

最終順位

【男子】
優勝：トヨタ車体
2位：大崎電気
3位：琉球コラソン
4位：豊田合成
5位：大同特殊鋼
6位：トヨタ自動車東日本
7位：湧永製薬
8位：トヨタ紡織九州
9位：HONDA
10位：HC 和歌山
11位：北陸電力
12位：HC 岐阜

【女子】
優勝：北國銀行
2位：オムロン
3位：広島メイプルレッズ
4位：ソニーセミコンダクタ
5位：香川銀行Ｔ・Ｈ
6位：三重バイオレットアイリス
7位：HC 名古屋

個人賞

【男子】
■優秀監督賞
酒巻清治（トヨタ車体）
■ MVP
甲斐昭人（トヨタ車体）
■ベストセブン
木村昌丈（大崎電気 GK）
岩永　生（大崎電気 BP）
木切倉真一（トヨタ車体 BP）
棚原　良（琉球コラソン BP）
渡部　仁（トヨタ車体 LW）
小澤広太（大崎電気 RW）
富田恭介（トヨタ車体 PV）
■最優秀新人賞
元木博紀（大崎電気）

【女子】
■優秀監督賞
荷川取義浩（北國銀行）
■ MVP
河田知美（北國銀行）
■ベストセブン
寺田三友紀（北國銀行 GK）
藤井紫緒（オムロン BP）
東濱裕子（オムロン BP）
宋　海林（広島メイプルレッズ BP）
松村杏里（広島メイプルレッズ LW）
鰍場雅予（北國銀行 RW）
横嶋かおる（北國銀行 PV）
■最優秀新人賞
松村杏里（広島メイプルレッズ）

大会を振り返って

大会委員長　江成 元伸

今回で第４回目を迎えた「高松宮記念杯　全日本社会人ハンドボール選手権大会」は、愛知県名古屋市にて開催いたしました。まずもって、本大会開催に際し、多大なるご支援・ご協力を賜りました愛知県ハンドボール協会様ならびに名古屋市ハンドボール協会様、ご協賛頂きました各企業様、大会関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、心より御礼申し上げます。

今大会も昨年、一昨年に続き「東日本大震災復興支援大会」とさせていただき、プログラム売上金の一部を義援金として被災地に寄付いたしました。

さて、今大会は男子 12 チーム、女子７チームが参加し、男子の部は前回大会優勝の大同特殊鋼、準優勝の大崎電気、３位の豊田合成、４位のトヨタ車体をシードとした予選トーナメントを勝ち上がった４チームによる決勝リーグ、女子の部は前回大会優勝のオムロンと、予選トーナメントを勝ち上がった３チームによる決勝リーグにて優勝を争いました。

５日間に渡り熱戦が繰り広げられました今大会を振り返りますと、男子の部では、琉球コラソンが大会２連覇を狙う大同特殊鋼を予選トーナメントで撃破し、大崎電気、豊田合成、トヨタ車体と共に決勝リーグに駒を進めました。決勝リーグでは、共に２勝０敗とした大崎電気とトヨタ車体が優勝を懸け直接対決いたしました。トヨタ車体のスローオフで始まった試合は、大崎電気が先制。その後も大崎電気が着実に得点を積み重ね、前半 16 分過ぎには９対４と５点をリード。前半中盤から終盤にかけては、攻勢をかける大崎電気に対しトヨタ車体が速攻を中心に食らい付く展開で、15 対 12 と大崎電気３点リードで前半を折り返しました。後半も一進一退の攻防が続きましたが、大崎電気が優位に試合を進め、後半 20 分過ぎには 22 対 19 と３点をリード。残り 10 分、このまま大崎電気ペースで進むかと思われましたが、応援団の大声援を背にトヨタ車体が反撃。ゴールキーパーの好守もあり、７連続得点で 26 対 22 と逆転で勝利し、悲願の初優勝を飾りました。

女子の部では、オムロン、北國銀行、広島メイプルレッズ、ソニーセミコンダクタの４チームが決勝リーグに駒を進めました。決勝リーグでは、前回大会優勝のオムロンを破り、１勝１分とした北國銀行がソニーセミコンダクタと対戦。北國銀行は、勝てば優勝となる大事な一戦で幸先よく先制すると相手を圧倒し、前半を 19 対９の大量 10 点リードで折り返しました。後半に入り、ソニーセミコンダクタが３連続得点で反撃に転じるものの、安定した試合運びで北國銀行が 33 対 20 で勝利。決勝リーグ２勝１分とした北國銀行が、オムロン対広島メイプルレッズの試合結果を待たずに３年ぶり２度目の優勝を飾りました。

今年度最初の全国大会となった本大会で、各チームとも自チームの力量が現時点でどのレベルにあるのかを把握できたものと思います。歓喜に沸いたチーム、涙を呑んだチーム、それぞれが今後より一層日々の練習で研鑽され、ハンドボールファンの皆様に、よりハイレベルで質の高いプレーを披露していただくことを期待します。

最後になりますが、連日白熱した試合を披露していただいた参加選手の皆様に感謝申し上げますとともに、ご来場いただきましたハンドボールファンの皆様に御礼申し上げ大会終了の報告とさせて頂きます。

［男子優勝］トヨタ車体

トヨタ車体ハンドボール部監督　酒巻 清治

7月2日より名古屋市で開催された第4回社会人選手権大会においてチーム創部以来初となる「優勝」という成績を収めることが出来ました。前身の実業団選手権から数えて55回となる伝統ある大会においてこのような成績を収められたこと、これもひとえに日頃よりトヨタ車体ブレイヴキングスに対し、絶大なるご支援ご声援頂いた賜物とこの誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。この社会人選手権大会、シーズンスタートとなる大会であり、1週間で4、5試合消化するという国内でも最もタフな大会であります。新加入選手のチームへのフィット、新戦術へのチャレンジ等、各チームとも様々な取り組みが見られます。

トヨタ車体は今年度のスタートを若干様相を違えた取り組みを致しました。例年であれば個人の基本技術を積み上げてチームパフォーマンスの構築を進めていきますが、今年度は「M-T-M（Match − Training − Match)」方式を取り入れ、まずはチームパフォーマンスを決めその中で必要とされる個人の基本技術向上に時間を割き、最終的にゲーム形式の攻防で再確認を行うといったものです。これは選手達の経験や実力を尊重しながら進めるもので、チームとして例年とは違った仕上がりで大会に臨むことが出来た大きな要因の一つではなかったかと思います。

とはいうものの予選トーナメントから厳しい試合の連続でした。初戦の湧永戦は剛柔織り交ぜた湧永のバックプレーヤー陣と大型ラインプレーヤーとのコンビネーションに最後まで苦しめられましたが、GK甲斐とセンターDF富田を中心としてチームDFで何とかしのぎ、流れを引き寄せることが出来ました。決勝リーグ初戦は前年度覇者である大同特殊鋼を延長戦の末撃破した琉球コラソン。試合運びには定評があり最後まであきらめないプレースタイルに強力なバックプレーヤーを加え戦力が充実しています。相手GK内田の好セーブに悉くシュートをはじかれ、常にリードを許す展開、後半途中から新キャプテン・木切倉を中心とした攻撃陣が機能し始め、試合終盤で主導権を奪うことに成功、何とか勝利を収めました。2戦目は豊田合成、大会2週間前に長崎国体愛知県予選で対戦しておりお互い手の内を知ったうえでのスタート。ミスから4点のビハインドを背負う展開、相手OFの効果的なコンビネーションに苦しめられながらも、ベテランディフェンダー藤田を投入したあたりから流れが変わり、会社からの大応援団の後押しもあり、最終戦の「決勝」に駒を進めることになりました。最終戦の大崎電気とは同じポイント数で並んではいるものの総得失点ではビハインド、優勝するには「勝利」するしかない状況。

立ち上がり攻守の切り替えが素早い大崎の速攻に先手を取られ一時は5点差をつけられる。ここでOFにおいては自分達の「強み」を、DFではシステムの徹底を確認し、試合の再構築を試み後半20分あたりで何とか追いつく。終盤は大崎のOFが単調になったところをGK甲斐を中心によく守り、「流れ」を逃すことなく優勝の瞬間を迎える事が出来ました。

最後に、地元愛知県での開催でもあり連日大声援を送ってくれた会社の応援団、ベストパフォーマンスを引き出すために管理・運営頂いた愛知県協会、全身全霊注がなければ倒せなかった4チーム、そのライバルたちに応えた車体の選手達、すべてに感謝申し上げたい。

2014年シーズンは始まったばかり、今後はターゲットなるブレイヴキングスより一層厳しい状況におかれます。今まで以上に引き続きご声援賜ります様お願い致します。

まずは、大会報告かたがた御礼申し上げます。大変有難うございました。

トヨタ車体ハンドボール部　木切倉 真一

はじめに、高松宮記念杯第4回全日本社会人ハンドボール選手権大会を開催するにあたり、ご尽力頂きました全日本社会人連盟をはじめ日本ハンドボール協会、地元愛知県ハンドボール協会、ならびにスタッフ、大会関係各位の皆様に改めて心から感謝します。

この度、高松宮記念杯第4回全日本社会人ハンドボール選手権大会において初優勝を果たすことができました。これ

も日頃からトヨタ車体ハンドボール部を支えて下さっている会社、チーム関係者の皆様、そして従業員のみなさんや応援団、ファンの熱い応援があったからこそ成しえることができました。本当にありがとうございました。

今大会の予選リーグ初戦は湧永製薬との対戦で、今シーズン最初の公式戦ということでスタートに少し硬さがありましたが、自分たちのやってきたこと、昨年の反省を改善できたことで勝利することができ決勝リーグへと進むことができました。

決勝リーグでは琉球コラソン、豊田合成、大崎電気といずれも苦戦を強いられました。特に最終戦の大崎電気戦ではお互い２勝の全勝対決で勝利すれば優勝という試合でした。互いに絶対勝つという気持ちのぶつかり合いで試合は進みました。終始リードを奪われていましたが、チームが最後まで諦めずプレーし、１人１人が自分の役割を果たしたことで、逆転し勝利することができました。これまで決勝に進みあと一歩のところで優勝を勝ち取れないことが多かったですが、今回の優勝で自分たちはできるという自信に繋がりました。

今シーズン最初の大会で優勝できたことは嬉しいですが、改善すべき部分、反省することなど今大会で多くみられました。優勝して追われる側とよく言いますがまだトヨタ車体の目指すべき姿ではありません。この結果に満足せず、再度チーム全員で向上していき、これからある大会のタイトル全て優勝という形で終われるように努力していきたいと思います。

最後にトヨタ車体は観ている方々に元気と感動を与えられるチームを目指し頑張ってまいりますので、今後ともトヨタ車体ハンドボール部に変わらぬご声援よろしくお願い致します。

［女子優勝］北國銀行

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取 義浩

始めに第４回全日本社会人ハンドボール選手権大会の開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに愛知県ハンドボール協会、名古屋市ハンドボール協会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

この度の大会において、３年ぶり２回目の優勝を達成する事が出来ました。これも一重に日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県体育協会並びに石川県ハンドボール協会、サポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

さて、大会前のチーム状態は決して良くなく、不安を感じての大会入り。

予選トーナメントは、地元HC名古屋との戦いでした。前半から勢いを感じさせるHC名古屋、ディフェンス・オフェンス共に精彩を欠き、我慢の試合であったが、何とか勝利し決勝リーグへ進出。

決勝リーグ初戦は、広島メイプルレッズ。有望な新人を加えて勢いに乗る広島メイプルレッズに終始リードされる苦しい展開。後半も６点リードされていましたが、キャプテン横嶋（か）を中心に粘りを発揮し、同点に追い付き、終了間際には逆転するもクイックスタートで同点とされ、引き分けで終えた。

２戦目は、抽選によりオムロンとの対戦。序盤はリードをされるが、昨日同様に積極的な攻防で逆転勝ちにつなげ、最終日に優勝をかけて、ソニーセミコンダクタとの対戦。

試合毎にチーム状態が上向き、序盤から優位に進め、全員の力で勝利しました。

これにより、３年振り２回目の優勝を飾る事が出来ました。若いチームをキャプテン横嶋・副キャプテン寺田が良くリードして、それに各選手が応え、小松コーチがフォローしてチーム力で戦い抜いた結果だと思います。

この結果に満足する事無く、多くの皆様方に夢と感動を与えられるようより一層精進致しますので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。

北國銀行ハンドボール部副キャプテン　寺田三友紀

始めに第４回高松宮記念杯全日本社会人選手権大会の開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力いただきました日本ハンドボール協会並びに愛知県ハンドボール協会など、多くに関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

試合経験の少ない若手選手が中心のチームなのでまだ好不調の波が大きい中、社会人大会を優勝できたことを心から嬉しく思います。これも一重に日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県体育協会並びに石川県ハンドボール協会、サ

ポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

大会では昨年のプレーオフ準優勝という悔しさを胸にチームとして、個人として一つ一つ課題を克服しながら、日々の練習に取り組み積極的なディフェンスから速攻へ持ち込むことを心掛け走り勝つことができました。

次の国民体育大会、全日本総合、日本リーグに向けて更に気を引き締めチーム一丸となって戦っていきます。この優勝は私たちだけの力だけでなく、陰で支えてくださった多くの関係者の皆様のおかげだと重ねて感謝申し上げます。

今後まだ戦いは続きます。すべての戦いで勝ち抜ける体力、戦術を身につけチーム一丸となって力の限り頑張っていきたいと思っておりますので、北國銀行をはじめ協会、サポーターの皆様にはこれまでと変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

戦　評

■男子

琉球コラソン　25（9-12, 16-13）25　豊田合成

決勝リーグで２敗しており、最後に１勝して終わりたい両チームの対戦。琉球コラソン、豊田合成共にいつもと違う低いディフェンス。琉球コラソンは相手ディフェンスのスキをついてロングシュートを狙うが、豊田合成のGKに阻まれ、豊田合成はクロスを多く使ったボール回しからカットインを狙うが、最後のシュート決めきれず苦しい展開になったが、速攻をきっちり決めて点差を広げ前半を３点リードで折り返す。

後半に入り、琉球コラソンが徐々にペースを取り戻し、後半15分が経過したところで、17対17とゲームを振り出しに戻す。その後も一進一退の攻防を繰り返す中、後半25分、琉球コラソンのサイドシュートが決まり23対22と１点勝ち越すが、合成もすぐにポストシュートを決め同点とする。合成が7mスローを獲得するもコラソンのゴールキーパーがセーブし得点ならず。最後の最後まで手に汗握る展開となったが25対25の引き分けでゲームセット。得失点差で琉球コラソンの３位が決定した。

トヨタ車体　26（12-15, 14- 7）22　大崎電気

優勝をかけた一戦はトヨタ車体のスローオフで開始するが先制したのは大崎電気。両チームともラインを下げて６－０で守る。オフェンスはスピーディーなパスワークで見ごたえのある試合となりそうだ。両チーム、ポストを絡め相手ディフェンスを切り崩しにかかる。前半中盤にかけては確実に得点した大崎電気が優位な展開となるが、前半終盤にかけてトヨタ車体は速攻を中心に反撃にでる。しかし、大崎電気は圧倒的な攻撃力でトヨタ車体の追従を許さず12対15で前半を折り返す。

後半早々に7mTを獲得した大崎電気だったがトヨタ車体のキーパーが好セーブ。後半も気の抜けない熱戦が繰り広げられる。19分すぎには19対21で大崎電気が２点のリード。両チーム共に好プレーをみせ点差は平行線をたどっていたが22分すぎにトヨタ車体はついに１点差とする。25分すぎにはトヨタ車体は逆転に成功し、23対22と１点リードすると一気にトヨタ車体は勢いにのり28分すぎには３点差とすると勢いそのまま26対22でトヨタ車体が初優勝を決めた。

■女子

北國銀行　33（19- 9, 14-11）20　ソニーセミコンダクタ

北國銀行はこの試合勝利すると優勝が決まる大事な一戦。ソニーのスローオフで前半30分の開始。先制点は北國銀行。積極的なディフェンスからの速攻など、スピーディーな攻撃で４連続得点し、たまらずソニーはタイムアウトを要請。ロングシュートやサイドシュートなどのセットオフェンスで応戦するも、北國の勢いを止められず、開始15分11対３と北國銀行がゲームの主導権を握る。その後もサイドシュートやカットインで着実に得点を重ねた北國銀行が19対９と大量リードで前半を折り返す。

後半、ソニーも粘りを見せ、果敢に攻め続けるも北國のディフェンスが上回り、なかなか得点に結び付かない。終始、圧倒的な力を発揮した北國銀行がそのまま突き放し勝利。３年ぶり２回目の優勝を飾った。

オムロン　25（11-13, 14-11）24　広島メイプルレッズ

第１試合にて北國の優勝が決まってしまったが、お互いに準優勝をかけた今シーズンを担う大事な１戦。メイプルのスローオフで前半30分の開始。先制点はメイプルがとるものの、すかさずオムロンもNo.17東濱で取り返す。その後もお互い一歩も譲らずの展開で、メイプルはNo.7宋を中心にゲーム終始先行する形で２点リードで前半終了。

後半開始早々、オムロンが２連取し同点に追い付くがメイプルもすかさずNo.7宋のミドルで勝ち越す。後半10分には、メイプルが３連取し４点差。たまらずオムロンがタイムアウトを要請し流れを変え後半22分過ぎには、本日２回目の同点に追い付く。そこからは、お互いに一進一退の攻防が続き残り１分24対24の同点。残り30秒でメイプルが２本の7mTを獲得するが２本ともオムロンGK藤間がファインセーブし、逆にオムロンは残り６秒で7mTを獲得し、それをNo.7藤井がきっちり決めオムロンが接戦を制した。

第34回 全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

大会を振り返って

福島県県北ハンドボール協会事務局長　**大橋 清作**

東日本大震災復興支援「とどけよう　スポーツの力を東北へ」のスローガンのもと、第34回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会が福島県本宮市において7月12日（土）13日（日）に開催されました。現在、全国クラブハンドボール選手権大会は東地区・中地区・西地区の3ブロックにて開催されておりますが、昭和56年開催の第1回から第15回までは全国を分けることなく開催されておりました。その間には第50回国民体育大会ふくしま国体の前年に第14回大会（平成6年開催）を初めて本宮町で行いました。その後、東西地区に分けての開催となった第16回大会からふくしま国体記念大会と位置づけ、固定開催地として本宮市で行われてきました。今回の第34回大会まで19回連続（通算20回開催）で本宮市の共催をいただき開催できたことは、福島県ハンドボール協会関係者一同喜びと誇りを感じている次第です。平成23年の東日本大震災被災の年にあっても東日本各地から大会に参加していただき成功裏に終わることができたことは復興を目指す一福島県民としてもうれしく感じたことを思い出します。

さて、今回の大会は男子：桜門クラブ、女子：REDSが男女ともに初優勝を飾りました。大会の歩み（優勝～第3位までを記載）を紐解きますと桜門クラブは、昭和60年の第5回大会で準優勝を飾っております。REDSは、平成17年の25回大会で3位に入賞、平成21年の第29回大会で準優勝をしております。競技力を維持することももちろんですがクラブチームを維持し全国レベルの試合に出場することは、クラブに所属する選手役員のハンドボールに対するたゆまぬ熱意、情熱の賜物であると感じます。毎回、大会運営を補助してもらっている高校生には、大変参考になる技術・戦術は、固定開催ならではのいい勉強の機会でした。今回も緒戦から白熱した試合が展開され、老獪なハンドボールで若さとパワーを巧みにかわし勝利を収める好試合が展開されたり、現役時代のライバル関係そのままに接戦を演じ観客を大いに沸かせる試合がありました。十分に見ごたえがありハンドボールの醍醐味を伝えることのできた大会になったと思います。

また、今大会は審判の上級審査会の場でもあります。よりレベルの高い審判資格に合格することを目指して真摯にレフェリングする姿勢も大会役員にとってはいい刺激になりました。受験された審判各位にはぜひ合格通知が届くことを願っております。

【最終順位】

■男子	■女子
優勝：桜門クラブ	優勝：REDS
2位：渡辺組	2位：ガビアーノチップス
3位：湖陵クラブ	3位：やんちゃクラブ
4位：学石クラブ	4位：梅の家

最後になりますが、東地区大会も来年度より各都道府県持ち回りの大会になります。第35回大会は山梨県での開催となり担当事務局の視察もしていただきました。来年度以降も今大会の成功を祈念し終わりにします。

戦　評

■男子決勝

桜門クラブ　22（13－9, 9－10）19　渡辺組

全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会、決勝は渡辺組対桜門クラブ。渡辺組のスローオフでゲームスタート。立ち上がり、桜門クラブ2番岡本のポストシュートで先制すると、渡辺組も8番渡辺のシュートで巻き返す。その後、前半10分過ぎ、渡辺組に退場者が出ている間に、桜門クラブが一気に畳み掛け、リードを4点差まで広げる。これに対し渡辺組の14番内野がブレイクスルーなどで1点差まで詰め寄るが、前半21分桜門クラブ15番田上の速攻などで再び4点差にリードを広げる。ここで渡辺組はタイムアウトを請求する。その後点差は縮まらず、9対13で前半戦終了。

後半に入ると、渡辺組は5番光武の速攻などで巻き返しを図るが、桜門クラブは10番土居のロングシュートなどで突き放す展開となる。その後、一進一退の展開となるが後半16分、渡辺組5番光武のサイドシュートで再び1点差に迫ったところで、桜門クラブはタイムアウトを請求する。タイムアウト後、桜門クラブ12番GK川端の好セーブや2番岡本のポストシュートで粘る渡辺組を退け、22対19で桜門クラブの勝利となった。

■女子決勝

REDS　13（5－8, 8－4）12　ガビアーノチップス

昨年2位の神奈川県ガビアーノチップスと、今大会が初の決勝進出となる埼玉県REDSによる決勝戦は、ガビアーノチップスのスローオフからスタート。前半開始33秒、ガビアーノチップスに与えられた7mスローを、REDSはキーパーの好セーブで阻止したが、OFで得点することができず、前半3分、ガビアーノチップス7番宇佐見に先制点を許した。ガビアーノチップスは、そこから勢いに乗り、2番柳原、3番小澤、8番徳田と得点が続き、前半10分で4-2と2点のリードを奪う。REDSも、ポストを上手く使ったセットプレーで得点するが、キーパーの好セーブから速攻を仕掛けるガビアーノチップスが、前半17分で7対3と4点にリードを広げた。REDSもポストプレーで1点を返すが、なかなか点差が縮まらないまま、前半は8対5と、ガビアーノチップスのリードで終了。

後半も開始早々REDSのキーパーが相手の7mスローをセーブすると、今度はそこから流れをつかんだREDS13番樋口のミドルシュートが決まり、後半4分で8対7と追い上げた。そこから、両チームともにキーパーの好セーブも連発し、なかなか得点できない時間が続く中、後半18分で11対10と、ガビアーノチップスが少ないリードを守ってきた。試合が大きく動いたのは後半のラスト5分。REDS8番武藤のポストシュートが決まり、11対11と、REDSが初めて同点まで追いついた。ガビアーノチップスは退場で1人少ない状況でも粘りの1点を奪い取るが、REDSもすぐに追いつき12対12。緊張感の漂う後半24分25秒、REDS5番原が倒され、7mスローを獲得すると、それを14番山崎が慎重に決め13-12とREDSが1点をリード。最後はキーパーのファインプレーでこの1点を守りきり、REDSがこの大会初優勝を決めた。

男子優勝：桜門クラブ

桜門クラブ監督　山崎 貴士

これまで、全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会に３回出場しましたが、３位、２位、３位とあと一歩が届きませんでした。過去の悔しい思いを本宮で経験した田上主将を含めた"悔しい中堅とベテラン"は「今度こそ」の強い気持ちを抱き、その気持ちを選手全員に伝播させ本大会に入ることが出来たことが勝因のひとつだったと思っております。

一方では新規加入メンバーもここ２年で大幅に増え出身校も多彩になったため"互いを知る""やりたいプレーを理解する"を大切に今シーズンに突入しました。短期間でのチームのまとまりに向け、練習や昼夜のミーティングなどの機会を増やした結果、選手の間では職場や学校、出身校の違いを超えて個性を理解しあう良い雰囲気が醸成されていきました。試合では、コート上で都度交わされる"反省""修正""励まし""戦術"の言葉のやりとりを大切にする雰囲気が大会１～２か月前から徐々に出来上がってきたことも、この結果につながったと確信しています。

初戦：不来方クラブ、２回戦 HC Saitama と順次調子をあげていき、フルメンバーがようやく揃った準決勝は、湖陵クラブの上手なプレーに手を焼きながらも１点差で勝ち上がり、各試合での教訓を胸に強豪渡辺組との決勝に挑みました。関東大会では後塵を拝した相手でしたが、前半は気持ちの入ったシュートが効果的に決まり僅かなリードを保ちつつ、後半残り５分の粘り強い DF でなんとか勝利をたぐり寄せました。

今回は東京都代表の初優勝でもあり、東京のハンドボール発展に向け微力ながら貢献できた嬉しい結果です。この１年の様々な試合や練習の積み重ねあっての成果であり、大会を準備運営し切磋琢磨の場を提供していただいたハンドボール協会や社会人連盟等の運営サイドの皆様や審判の方々、練習相手になって下さった諸チームの方々など多くの関係者のご協力・ご尽力に対し、代表：丸山とともに心より感謝・御礼申し上げます。

桜門クラブ主将　田上 敬祐

７月 12 日、13 日福島県本宮市で開催された第 34 回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会に東京都代表として出場させていただきました。過去の２回の出場は、２位、３位ととても悔しい思いをし、今年にかける気持ちは強く、優勝できたことをとても嬉しく思います。昨年、今年と新加入のメンバーも増え、チームが若返りしている中で、チームとしての決まりごとを作る事、作った決まり事をみんなで守る事がとても大変でした。出身校も違い、今まで学んだハンドボールが違う中で、一つ一つの細かいプレー、判断、個々のスキル等を理解していくには時間が足りず、ミーティング、打合せを多くし、年齢関係なくみんなが意見を言えるチーム作りを心掛けたことが良かったと思います。

２回戦の HC saitama はベテラン選手が多く、粘り強い、丁寧なプレーが印象的でした。丁寧でミスをしないプレーは点差を離すのが難しく、勉強になりました。準決勝の湖陵クラブは、立ち上がり点差を離す事ができたものの、自分たちのミスからの逆速攻で気づいたら点差を詰められており、１点差ととても厳しい試合でした。決勝戦の渡辺組は、関東大会で負けていた相手でした。力強い勢いのあるプレーと、連携のあったプレーに手を焼きながら、ディフェンスを頑張り失点を少なくできたことで勝利を掴むことができました。

今大会でさらに課題もできました。桜門クラブらしいハンドボールを追求し、さらに強いチームとなるよう努力致します。応援していただいた皆様、仕事で大会に来る事ができなかったメンバー、メンバーの家族、多くの関係者の方々に感謝致します。ありがとうございました。

女子優勝：REDS

REDS　武藤 彩夏

今回、第 34 回全国クラブハンドボール選手権大会東部地区大会において、優勝という結果を残せたのも、大会運営に関わってくださった皆様や応援していただいた方々のご尽力、ご協力の賜と、心からお礼申しあげます。

私たち REDS は高校時代の先輩、後輩、同級生が多く、和気藹々と埼玉県内で活動しているチームです。クラブハンドボール選手権大会東地区大会と冬の首都圏リーグに焦点を合わせて練習を行っています。

今回の大会では、若手の選手が不在という体力面で、多大な不安を抱える状況のなか、１日、２試合と過酷なスケジュールのなかで、準決勝、決勝と１点差の負けてもおかしくない試合でしたが、「ここまできたからには勝ちたい」「おいしいお酒が飲みたい」とチーム一丸となり戦いました。交代メンバーも少ないなかで、体力の限界を感じながら、若手選手に良い報告ができるように、いるメンバーで必死になって走った結果が優勝に繋がったのではないかと思います。

私たちは、今大会の成果や反省点を踏まえ、ハンドボールができる環境に感謝し、今後も皆様に慕われるチームとなるよう尽力するとともに、来年度もこの大会に出場できるよう精進していきます。ありがとうございました。

第34回 全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会

大会を振り返って

高知県ハンドボール協会理事長　武田 末男

第34回全国クラブハンドボール選手権大会が高知県県民体育館、春野体育館の2会場で2日間の熱戦が繰り広げられました。

本県は、3地区制となってからは初めてですが、1998年、クラブ選手権大会が2地区制となった時に、1番乗りの開催地として大会を実施し、その後2001年度、2004年度に2回実施。そして今大会の4回目と、クラブ選手権大会に限って言えば、愛着心も持っているかのように思います。

開催前日、本県は台風8号の影響により全学校が臨時休校になってしまい、「大会中止？」が脳裏を過ったのですが、無事台風も通過し代表者会議のあった当日は快晴となり、ほっとしたところです。

大会初日は男女とも3チームずつの4ブロックに分けられた予選リーグを行い、2日目には各ブロック1位が決勝トーナメントを、2位～3位は各順位決定戦を行いました。男子決勝の岩国クラブと宮崎フェニックスでは前半5点のリードした宮崎フェニックスに岩国クラブが後半追い上げて一点差まで詰め寄ったものの、タイムアップとなり宮崎フェニックスが勝利をおさめました。女子決勝はコスモスビッキーズとFCCの九州勢同士の戦いとなり、前半2点リードしたFCCでしたが、後半コスモスビッキーズが追い上げて逆転優勝するという、決勝戦にふさわしい展開となりました。

また、第1延長までもつれ込んで勝利した中央クラブ他、各試合予選リーグから1，2点差を争う試合展開もあり、大盛況で大会を終えることができました。

本大会も、前大会同様に審判のA級・B級審査が行われ、37名の受検者と当協会10名計47名の審判団となりました。西地区でも審判の受検が可能となったことから、レフェリーの受検の活用・育成・利便性が増したこと、本県のレフェリー育成に多くの刺激があったことに大変感謝しています。

昨年度の鹿児島大会に引き続き、3地区に分かれた本大会、開催した2会場は距離があり、男子予選リーグと5位～11位決定戦の会場であった春野体育館では、冷房が完備しておらず、猛暑の中扇風機をフル回転して試合展開をしたチームの皆様には大変気の毒な思いだったこと、大会運営を通じて行き届かない点も多々あり、ご不便をおかけしたことがあったと思います。これらのことは今後の反省として次回以降の大会運営に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、猛暑の中全力でプレーを展開した選手やスタッフ、日本協会をはじめ多くの皆様に支えられて本大会が終了したことを厚くお礼を申し上げ、感謝の言葉とさせていただきます。

【最終順位】

■男子	■女子
優勝：宮崎フェニックス	優勝：コスモスビッキーズ
2位：岩国クラブ	2位：FCC
3位：中央クラブ	3位：那覇西クラブ
4位：総社クラブ	4位：うとスポーツクラブ

戦　評

■男子決勝

宮崎フェニックス　18（11-6, 7-11）17　岩国クラブ

準決勝でともに大差をつけて勝利した両チーム。若手中心の宮崎とベテランと若手の混成である岩国との対戦。立ち上がり宮崎は3-2-1DFで岩国OFに対抗。岩国は14番藤長の1対1などで左サイドを突破し、3番上風呂のカットインで得点を重ねる。一方宮崎はDFからの速攻と14番秋吉を中心に得点を重ね一進一退の攻防を展開する。しかし中盤以降岩国は宮崎のDFに苦戦し、宮崎GK下道の好セーブにより得点を重ねることができず、11対6と宮崎リードで前半戦を終える。

後半岩国の3番上風呂の個人技で得点を重ねるも、宮崎の固いDFを突破できず5点差のまま中盤まで迎える。中盤以降岩国は11番森本の速攻、サイドで2点差に縮めるも、17分に5番村本が痛恨の退場。残り4分、岩国はDFシステムを変更して反撃を試みるも、あと1歩及ばず、18対17で宮崎フェニックスが優勝した。

■女子決勝

コスモスビッキーズ　25（11-13, 14-10）23　FCC

優勝をかけた戦いは九州同志の対戦。前半開始時は一歩も譲らない状況だったが、コスモスビッキーズ甲斐の連続得点によりリードする。しかし、FCCも小松の速攻により逆転に成功。さらにコスモスビッキーズ阿倍の退場によりFCCのパワープレーかと思われたが、コスモスビッキーズが踏ん張り、阿部退場中を同点で迎える。阿部退場後逆転に成功したが、FCCも負けずと日渡のカットインで一進一退の攻防を展開。残り4分FCC松本の速攻・ミドルで11対13、FCCリードで前半終了。

後半FCC松本の7mTで好スタートするものの、攻守で粘るコスモスビッキーズは1点差まで縮める。後半4分6-0DFから甲斐をトップに置く1-5DFに切り替えたコスモスビッキーズは、FCCのキーマン松本を抑えにいったのが功を奏し、逆転に成功。最後にFCCも追い上げを見せたが、あと一歩届かずコスモスビッキーズが優勝した。

男子優勝：宮崎フェニックス

宮崎フェニックス監督　種子田 健太

7月11～13日まで、高知県で開催された西日本社会人選手権に参加させてもらいました。1日2試合、社会人にとっては決して楽ではない日程、人数もぎりぎりで体力的にも厳しい中での試合でした。小柄なチームなので、運動量とキーパーを中心とし、DFでしっかり守って速攻に繋げることを意識して戦いました。

決勝では、負傷者も出て厳しかったですが、粘り強く守って走り勝つことができました。仕事をしながら、都合をつけて参加してくれた選手、陰ながら支援や協力してくださった皆様に良い結果を残すことができてよかったです。

女子優勝：コスモスビッキーズ

コスモスビッキーズ　阿部 佳織

今回、コスモスビッキーズは第26回大会で優勝して以来2度目の優勝となりました。人数が少ない中での1日2試合を2日間するのは、体力的にも精神的にもきつかったですが、それよりも今大会の目標である「優勝」に向けて全員の気持ちの方が上回っていたのが勝因の一つだと思っています。

試合を振り返ってみると、準決勝は沖縄の那覇西クラブで決勝は福岡のFCCどちらも九州のクラブチームということで、てのうちを知っているからこその苦しい試合になりました。決勝の前半は、コスモスの得意とする守りからの速攻のペースにもっていくことができず、相手のペースで試合が進んでいきました。後半に入ってからも一進一退の攻防が続き、お互い波にのれそうでのれない苦しい時間帯が続きました。そんな苦しい時間帯にチームの雰囲気と勝利の流れを引き寄せた選手がいました。怪我人や疲労の為にコートに立てなかった選手の交代で出場した高森です。高森の勢いのあるプレーで2連続得点し、そこからチーム全体の雰囲気も変わり、勢いづいたコスモスが逃げきっての勝利でした。

今回の大会はコスモスの総合力で勝ち取った優勝でした。最高に嬉しいです。

ここで今大会のキラリと光ったコスモスのメンバーの紹介をさせて下さい。

宮本のDFと合わせたキーピング／安達のここぞのキーピング／岩丸の勢いづけるスロー／工藤の欲しい時の1本／平川のオールラウンド力／松本の速攻のスピード／高橋の攻守のスタミナ／高森のハンドを楽しむプレー／日名子のチームをまとめるDF／甲斐のスーパーロング

それぞれの力を総合しての今回の優勝!!　一人でも欠けていたら今回の優勝はなかったと思います。最高のチームと仲間に万歳～。今回の西日本大会におきまして、運営をしていただいた大会関係者の皆様、またコスモスを応援して下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第39回日本ハンドボールリーグ日程

週	月/日（曜）	開催地	会　場	試合開始	対戦チーム			
1	10/25（土）	岩　手	岩手県営体育館	12：00	女子	北國銀行	×	三重バイオレットアイリス
				14：00	男子	大崎電気	×	琉球コラソン
		愛　知	知立市福祉体育館	13：30	男子	トヨタ車体	×	トヨタ自動車東日本
			東海市民体育館	14：00	男子	大同特殊鋼	×	豊田合成
		広　島	佐伯区スポーツセンター	14：00	女子	広島メイプルレッズ	×	HC 名古屋
		佐　賀	神埼中央公園体育館	15：00	男子	トヨタ紡織九州	×	北陸電力
		熊　本	山鹿市総合体育館	14：00	女子	オムロン	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
2	11/1（土）	岐　阜	飛騨高山ビッグアリーナ	13：00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	広島メイプルレッズ
				15：30	男子	大崎電気	×	大同特殊鋼
		愛　知	ブラザー体育館	13：00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	三重バイオレットアイリス
				15：15	女子	HC 名古屋	×	北國銀行
		広　島	中区スポーツセンター	12：00	男子	トヨタ紡織九州	×	トヨタ車体
				14：00	男子	トヨタ自動車東日本	×	豊田合成
				16：00	男子	湧永製薬	×	琉球コラソン
	11/2（日）	岐　阜	飛騨高山ビッグアリーナ	13：00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	ソニーセミコンダクタ
		愛　知	ブラザー体育館	13：00	女子	HC 名古屋	×	三重バイオレットアイリス
		広　島	中区スポーツセンター	13：00	男子	琉球コラソン	×	トヨタ紡織九州
				15：00	男子	湧永製薬	×	トヨタ車体
	11/3（月）	石　川	小松総合体育館	13：00	女子	北國銀行	×	オムロン
		香　川	高松市香川総合体育館	12：00	男子	大同特殊鋼	×	北陸電力
				14：30	男子	トヨタ自動車東日本	×	大崎電気
3	11/8（土）	佐　賀	神埼中央公園体育館	13：00	男子	大崎電気	×	豊田合成
				15：00	男子	トヨタ紡織九州	×	大同特殊鋼
		熊　本	山鹿市総合体育館	14：00	女子	オムロン	×	三重バイオレットアイリス
		鹿児島	霧島市国分体育館	14：00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	広島メイプルレッズ
		沖　縄	浦添市民体育館	15：30	男子	湧永製薬	×	トヨタ自動車東日本
				18：00	男子	琉球コラソン	×	北陸電力
	11/9（日）	佐　賀	神埼中央公園体育館	13：00	男子	トヨタ車体	×	大同特殊鋼
				15：00	男子	トヨタ紡織九州	×	豊田合成
		熊　本	山鹿市総合体育館	11：00	女子	北國銀行	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				13：25	女子	オムロン	×	広島メイプルレッズ
		鹿児島	霧島市国分体育館	14：00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	HC 名古屋
		沖　縄	浦添市民体育館	12：30	男子	北陸電力	×	湧永製薬
				15：00	男子	琉球コラソン	×	トヨタ自動車東日本
4	11/15（土）	宮　城	フラップ大郷21	13：00	男子	トヨタ自動車東日本	×	トヨタ紡織九州
		埼　玉	和光市総合体育館	15：00	男子	大崎電気	×	北陸電力
		愛　知	中村スポーツセンター	13：00	女子	HC 名古屋	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15：15	男子	大同特殊鋼	×	湧永製薬
			TGアリーナ	14：00	男子	豊田合成	×	トヨタ車体
5	11/22（土）	山　形	東根市民体育館	15：00	男子	トヨタ自動車東日本	×	大同特殊鋼
		愛　知	TGアリーナ	14：00	男子	豊田合成	×	北陸電力
	11/23（日）	岐　阜	ヒマラヤアリーナ（岐阜アリーナ）	18：30	男子	大崎電気	×	湧永製薬
	11/24（月）	沖　縄	沖縄市体育館	14：00	男子	琉球コラソン	×	トヨタ車体
6	11/29（土）	福　井	北陸電力福井体育館フレア	14：00	男子	北陸電力	×	トヨタ自動車東日本
		宮　崎	小林市市民体育館	13：00	男子	湧永製薬	×	トヨタ紡織九州
				16：00	男子	トヨタ車体	×	大崎電気
	11/30（日）	山　梨	甲州市塩山体育館	13：00	男子	琉球コラソン	×	豊田合成
7	12/6（土）	愛　知	ウィングアリーナ刈谷	12：00	男子	豊田合成	×	トヨタ自動車東日本
				14：00	男子	トヨタ車体	×	トヨタ紡織九州
			枇杷島スポーツセンター	13：00	男子	琉球コラソン	×	湧永製薬
				15：15	男子	大同特殊鋼	×	大崎電気
	12/7（日）	福　井	北陸電力福井体育館フレア	13：00	男子	大崎電気	×	トヨタ自動車東日本
				15：00	男子	北陸電力	×	大同特殊鋼
		愛　知	知立市福祉体育館	11：15	男子	トヨタ車体	×	湧永製薬
				13：15	男子	トヨタ紡織九州	×	琉球コラソン
8	12/13（土）	埼　玉	和光市総合体育館	14：00	男子	大崎電気	×	トヨタ紡織九州
		愛　知	中村スポーツセンター	12：45	男子	トヨタ車体	×	北陸電力
				15：00	男子	大同特殊鋼	×	琉球コラソン
	12/14（日）	高　知	高知県東部総合運動場　くろしおアリーナ	13：30	男子	豊田合成	×	湧永製薬
9	1/10（土）	石　川	小松総合体育館	18：00	女子	北國銀行	×	広島メイプルレッズ
		三　重	四日市中央緑地体育館	12：00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	オムロン
				14：30	女子	三重バイオレットアイリス	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
	1/11（日）	石　川	小松総合体育館	18：00	男子	大同特殊鋼	×	トヨタ紡織九州
	1/12（月）	福　井	北陸電力福井体育館フレア	14：00	男子	北陸電力	×	トヨタ紡織九州
		岐　阜	飛騨高山ビッグアリーナ	13：00	女子	HC 名古屋	×	ソニーセミコンダクタ
				15：30	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	北國銀行
		広　島	東区スポーツセンター	14：00	女子	広島メイプルレッズ	×	オムロン
10	1/17（土）	広　島	東区スポーツセンター	14：00	女子	広島メイプルレッズ	×	三重バイオレットアイリス
	1/18（日）	福　井	北陸電力福井体育館フレア	14：00	女子	北國銀行	×	ソニーセミコンダクタ
		愛　知	ブラザー体育館	13：00	女子	HC 名古屋	×	オムロン
11	1/24（土）	石　川	金沢市総合体育館	13：00	女子	広島メイプルレッズ	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15：00	女子	北國銀行	×	HC 名古屋
		三　重	鈴鹿市立体育館	13：00	女子	三重バイオレットアイリス	×	ソニーセミコンダクタ
	1/25（日）	三　重	鈴鹿市立体育館	14：00	女子	三重バイオレットアイリス	×	HC 名古屋
		京　都	島津アリーナ京都	13：00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15：00	女子	オムロン	×	北國銀行

週	月/日（曜）	開催地	会　場	試合開始	対戦チーム			
12	1/31（土）	鹿児島	霧島市国分体育館	14:00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	広島メイプルレッズ
	2/1（日）	愛　知	ブラザー体育館	13:00	女子	HC 名古屋	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15:15	男子	豊田合成	×	大崎電気
		三　重	名張市総合体育館	14:00	女子	三重バイオレットアイリス	×	オムロン
13	2/7（土）	宮　城	大和町総合体育館	13:00	男子	トヨタ自動車東日本	×	トヨタ車体
		愛　知	TG アリーナ	13:00	女子	HC 名古屋	×	ソニーセミコンダクタ
				15:30	男子	豊田合成	×	大同特殊鋼
	2/8（日）	石　川	小松総合体育館	13:00	女子	北國銀行	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
		愛　媛	西条市総合体育館	13:00	女子	広島メイプルレッズ	×	オムロン
		沖　縄	名護 21 世紀の森体育館	14:00	男子	琉球コラソン	×	大崎電気
	2/11（水）	岐　阜	飛騨高山ビッグアリーナ	13:00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	三重バイオレットアイリス
		大　阪	八尾市立総合体育館	14:00	男子	湧永製薬	×	大崎電気
		広　島	中区スポーツセンター	14:00	女子	広島メイプルレッズ	×	北國銀行
		福　岡	福岡県スポーツ科学情報センター（アクシオン福岡）	14:00	男子	北陸電力	×	豊田合成
		熊　本	山鹿市総合体育館	18:00	女子	オムロン	×	ソニーセミコンダクタ
		大　分	別府市総合体育館（べっぷアリーナ）	12:30	男子	トヨタ車体	×	琉球コラソン
				14:30	男子	大同特殊鋼	×	トヨタ自動車東日本
14	2/14（土）	石　川	金沢市総合体育館	13:00	女子	北國銀行	×	ソニーセミコンダクタ
		愛　知	刈谷市体育館	12:00	女子	HC 名古屋	×	オムロン
				14:00	男子	トヨタ車体	×	豊田合成
		三　重	鈴鹿市立体育館	13:00	男子	トヨタ紡織九州	×	トヨタ自動車東日本
				15:00	女子	三重バイオレットアイリス	×	広島メイプルレッズ
		広　島	湧永満之記念体育館	14:00	男子	湧永製薬	×	大同特殊鋼
	2/15（日）	福　井	北陸電力福井体育館フレア	13:00	女子	オムロン	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15:00	男子	北陸電力	×	大崎電気
		三　重	鈴鹿市立体育館	13:00	女子	HC 名古屋	×	広島メイプルレッズ
				15:00	女子	三重バイオレットアイリス	×	北國銀行
15	2/21（土）	岩　手	花巻市総合体育館	13:00	男子	琉球コラソン	×	北陸電力
				15:00	男子	トヨタ自動車東日本	×	湧永製薬
		岐　阜	下呂交流会館	13:00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	広島メイプルレッズ
		愛　知	ブラザー体育館	13:00	女子	三重バイオレットアイリス	×	ソニーセミコンダクタ
				15:15	女子	HC 名古屋	×	北國銀行
	2/22（日）	宮　城	フラップ大郷 21	12:00	男子	湧永製薬	×	北陸電力
				14:30	男子	トヨタ自動車東日本	×	琉球コラソン
		東　京	武蔵村山市総合体育館	12:30	男子	豊田合成	×	トヨタ紡織九州
				15:00	男子	大同特殊鋼	×	トヨタ車体
		岐　阜	下呂交流会館	13:00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	ソニーセミコンダクタ
		愛　知	ブラザー体育館	13:00	女子	北國銀行	×	オムロン
				15:15	女子	HC 名古屋	×	三重バイオレットアイリス
16	2/28（土）	福　井	北陸電力福井体育館フレア	14:00	男子	北陸電力	×	トヨタ車体
		広　島	東区スポーツセンター	13:00	男子	湧永製薬	×	豊田合成
				15:00	女子	広島メイプルレッズ	×	ソニーセミコンダクタ
		佐　賀	佐賀県総合体育館	15:00	男子	トヨタ紡織九州	×	大崎電気
		沖　縄	沖縄県立武道館	14:00	男子	琉球コラソン	×	大同特殊鋼
	3/1（日）	岐　阜	飛騨高山ビッグアリーナ	13:00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	HC 名古屋
		熊　本	山鹿市鹿央体育館	14:00	女子	オムロン	×	三重バイオレットアイリス
17	3/7（土）	宮　城	フラップ大郷 21	13:00	男子	トヨタ自動車東日本	×	北陸電力
		愛　知	TG アリーナ	14:00	男子	豊田合成	×	琉球コラソン
		熊　本	人吉スポーツパレス	12:00	女子	広島メイプルレッズ	×	三重バイオレットアイリス
				14:00	女子	オムロン	×	HC 名古屋
				16:00	男子	大崎電気	×	トヨタ車体
		鹿児島	霧島市国分体育館	15:00	女子	ソニーセミコンダクタ	×	北國銀行
	3/8（日）	佐　賀	神埼中央公園体育館	13:00	女子	三重バイオレットアイリス	×	飛騨高山ブラックブルズ岐阜
				15:00	男子	トヨタ紡織九州	×	湧永製薬
		鹿児島	霧島市国分体育館	12:00	女子	北國銀行	×	広島メイプルレッズ
				14:15	女子	ソニーセミコンダクタ	×	オムロン
18	3/14（土）	石　川	小松総合体育館	13:00	女子	北國銀行	×	三重バイオレットアイリス
		岐　阜	ヒマラヤアリーナ（岐阜アリーナ）	13:00	女子	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	×	オムロン
	3/15（日）	愛　知	ブラザー体育館	14:00	女子	HC 名古屋	×	広島メイプルレッズ

プレーオフ	3/21（土）・22（日）	東京都・駒沢体育館

第6回ハンドボール　チャレンジディビジョン　大会日程

2014.07.20

○主催
日本ハンドボールリーグ機構

○開催期間
リーグ戦：平成26年9月6日（土）～平成27年2月11日（水）
順位決定戦：平成27年2月28日（土）・3月1日（日）

○参加資格
（1）日本協会「一般A」登録された企業チームおよびクラブチーム
（2）各都道府県協会で国体用に組織されたチーム
（3）日本協会「大学」登録し各学連1部リーグの大学チーム

○参加チーム（男子）
・Aブロック（東地区）7チーム
東北福祉大学（宮城県）、FST（東京都）、HC岐阜（岐阜県）、
大同大学、トヨタ自動車、HC春日井、同朋クラブ（愛知県）
・Bブロック（西地区）6チーム
HONDA（三重県）、HC・MKA奈良（奈良県）、HC和歌山（和歌山県）、
OSAKA SELECTION、八光自動車工業、ボンチフェローズ（大阪府）

○試合形式
A・Bブロックによる1回戦総当りのリーグ戦後、順位決定戦にて順位を決定する

《Aブロック》

週	開催日		開催地	会　場	スローオフ	対　戦　カ　ー　ド		
1	9/14	日	愛知	トヨタ車体吉原アリーナ	13：00	トヨタ自動車	―	HC春日井
2	11/2	日	愛知	大同特殊鋼体育館	10：00	大同大学	―	同朋クラブ
					11：45	HC春日井	―	HC岐阜
3	11/8	土	宮城	フラップ大郷21	15：00	東北福祉大学	―	トヨタ自動車
					16：50	FST	―	同朋クラブ
	11/9	日	宮城	フラップ大郷21	11：00	FST	―	トヨタ自動車
					12：50	東北福祉大学	―	同朋クラブ
4	11/29	土	埼玉	八潮エイトアリーナ	14：00	東北福祉大学	―	大同大学
					15：45	FST	―	HC岐阜
	11/30	日	東京	新宿コズミック体育館	10：00	東北福祉大学	―	HC岐阜
					11：45	FST	―	大同大学
5	12/13	土	岐阜	上石津体育館	13：00	HC春日井	―	東北福祉大学
					14：50	HC岐阜	―	同朋クラブ
	12/14	日	岐阜	北部体育館	13：00	HC春日井	―	FST
					14：50	HC岐阜	―	トヨタ自動車
6	1/17	土	埼玉	八潮エイトアリーナ	15：00	FST	―	東北福祉大学
	1/18	日	愛知	トヨタ車体吉原アリーナ	13：00	大同大学	―	トヨタ自動車
7	1/31	土	愛知	大同大学体育館	13：00	トヨタ自動車	―	同朋クラブ
					14：50	大同大学	―	HC春日井
	2/1	日	愛知	大同大学体育館	11：00	HC春日井	―	同朋クラブ
					12：45	大同大学	―	HC岐阜

《Bブロック》OSAKA＝OSAKA SELECTIONの略

週	開催日		開催地	会　場	スローオフ	対　戦　カ　ー　ド		
1				（調整中）		HC和歌山	―	ボンチフェローズ
						HC・MKA奈良	―	HONDA
2	10/5	日	三重	ホンダアクティブランド	13：00	八光自動車工業	―	HC・MKA奈良
					14：50	OSAKA	―	HONDA
3	11/15	土	近畿地区	（調整中）		HONDA	―	ボンチフェローズ
						OSAKA	―	HC和歌山
	11/16	日	近畿地区	（調整中）		OSAKA	―	八光自動車工業
						HONDA	―	HC和歌山
4	12/6	土	和歌山	岩出市立体育館	13：00	八光自動車工業	―	ボンチフェローズ
					14：50	HC和歌山	―	HC・MKA奈良
	12/7	日	和歌山	岩出市立体育館	11：30	ボンチフェローズ	―	HC・MKA奈良
					13：20	HC和歌山	―	八光自動車工業
5	1/24	土	奈良	桜井芝公園体育館	13：00	八光自動車工業	―	HONDA
					14：50	HC・MKA奈良	―	OSAKA
6	2/11	水	大阪	八尾市立体育館	11：30	OSAKA	―	ボンチフェローズ

	開催日		開催地	会場	スローオフ	対　戦　カ　ー　ド
最終	2/28	土	愛知	トヨタスポーツセンター第1体育館		決勝トーナメントおよび順位決定戦
	3/1	日				

〜アジア制覇への期待〜

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

今シーズンは各カテゴリーで国際試合が多く組まれている。ジュニア女子の世界選手権、U-22東アジア選手権、ユース女子世界選手権、さらには世界学生選手権、ユース男子アジア選手権と続き、暮れには女子アジア選手権も控える。

中でも注目されるのが9月に韓国・仁川で開かれるアジア大会である。女子アジア選手権や来年のリオデジャネイロ・オリンピック予選に向け、何としても結果を残しておきたい重要な戦いである。

アジア大会にハンドボールが加わったのは、男子が1982年のニューデリー（インド）大会、女子は1990年の北京（中国）大会からだ。残念ながら日本は男女とも優勝は一度もなく、男女とも韓国が圧倒的な強さを見せている。しかし前回の広州(中国)大会では男子が3位、女子は準優勝した。

ここらで長年阻まれてきた韓国の高く、厚い壁を突き破ることに全精力を注ぎたいものである。6月の日韓定期戦はあと一歩まで詰め寄ったが、いずれも2点差で涙をのんだ。

日本の悲願であるオリンピック出場には、韓国、力をつけている中国や中東勢を倒さなければ達成はできない。とりわけ、まずは東アジアを制することである。

来年はリオ・オリンピック予選が行われる。2020年東京オリンピックを成功させるためには、まずリオへの出場権獲得が大切であることは間違いない。そのためにも今回のアジア大会、女子では暮れのアジア選手権での結果が何より求められる。ここで勢いをつけてオリンピック予選に臨めば、大きな光が差し込んでくるはずである。

今年、男女ともナショナルチームの合宿を精力的にこなしているし、海外遠征もこなしている。欧州勢との戦いを通して、当たりの強さなどへの対応力も磨かれる。新生日本代表にとっては「今年」そして「来年」は大きなキーワードである。

球界挙げてのバックアップによって、どこまで戦力の底上げが図られるか。各所属チームはもとより、日本協会をはじめ下部組織を含めた支援と協力が欠かせない。

また、2019年日本開催の女子世界選手権の成功を目指すにも強化は重要である。まずは東アジア制覇、そしてアジアチャンピオンへの道のりを着実に歩むために、日本ハンドボール界こぞって強化プランを推進し“真の日本代表”メンバーで目標実現に向かって力強く突き進んでいきたいものである。

日本リーグ勢のさらなるレベルアップ、学生陣の押し上げなどあらゆる手立てで難関突破にチャレンジしたい。

帯同報告 第16回男子アジア選手権（2015年男子世界選手権出場権予選）

帯同医師：井本 光次郎（熊本赤十字病院）

日時：2014年1月25日～2月7日（1月22、23日　練習試合）　開催都市：バーレーン、マナーマ

2015年世界選手権の出場をかけたアジア選手権が上記のごとく開催された。開催期間中における帯同医師としての医事報告を行う。

バーレーンの1、2月は日本の晩秋くらいの気温であり、雨も少なく、過ごし易い気候であった。中東地域での開催ということもあり、帯同前は水道事情を考慮し、下痢、腹痛、嘔吐などの消化器症状を訴える選手が多くなることが予想された。治安は約2年前に「アラブの春」を起因とするバーレーン騒乱が起こっていたが、現在はデモなどは行われておらず、安定していた。

帯同前の選手状態であるが、半月板損傷疑いによる膝関節痛を訴えプレーにも支障をきたしている選手が1人おり、その他整形外科的な慢性痛を抱えている選手は数名いるものの、プレーが不可能な整形外科的外傷や内科的な問題点を抱えている選手はいなかった。

大会期間中は、コンタクトスポーツであるがゆえに、練習試合、本戦ともにいくらかの外傷を認めた。多いのは一時的な選手交代が必要な程度の大腿部打撲（5例）であり、足関節捻挫（3例）、鼻根部打撲（2例）が続いた。特に大きな外傷としては2例認めた。1例は、もともと膝関節痛を訴えていた選手がシュート時にデフェンスとのコンタクトにより負傷し、プレー継続が不能となった例、そして、もう1例は、シュート時の着地の際に足関節内反を強制され負傷し、こちらもプレー継続が不可能となった例である。この症例は骨折が疑われ、翌日現地の病院を受診させ、足関節果部骨折（外果のみ）を認めた。手術適応であった。

内科的な問題点としては、遠征の後半になると下痢や腹痛症状を訴える者が増えた。下痢、軟便は多い時で1日に8名認めた日もあったが、感染性とは考えにくく、重傷化も認めず、いずれも数日で収まった。疲労によるものと考えられた。

今回の遠征では途中、注射針など処置用品が不足する事態があった。内服の常備品は十分と考えられたが、注射針やガーゼなどの備品、外用剤など基本リストとして追加を考慮すべきものも多数あった。今後、医事に関わる者の役割として、ドクターバックの再整理を含め、選手の既往歴、傷害、健康状況などを帯同前に速やかかつ簡便に把握できるシステム作りも進めていかなければならないと考える。

帯同報告 2013世界選手権 in セルビア

チームドクター　永澤 雷太（函館五稜郭病院整形外科）

11月28日羽田国際空港から世界選手権の直前に行われるフランス国際大会出場のためにパリに向かう。12月6日の世界選手権第一日目のセルビア戦を皮切りに大会が始まり、12月18日の帰国まで、女子ナショナルチームに帯同をした。

IHFに対して毎試合後のinjury reportの提出が義務づけられていた。提出は試合の翌日（翌日に試合がない時は翌々日）に会場のIHFスタッフに提出すれば済み、トラブルは無かった。予選リーグで尿のドーピング検査が1回2名、血液のドーピングが1回1名に行われた。決勝トーナメントで尿のドーピング検査が1回1名行われた。時間はかかったが問題なく終了した。

“医師”として働く場面は非常に少なかった。関節注射と内服薬の処方をすることはあったが、発熱のための点滴、縫合が必要な外傷、現地の病院受診などは無かった。しかし、これは選手・チームにとって良いことだと考えている。ほとんどの外傷はベテランのトレーナーが対応できるし、私では対応できない事が多い。医師は現場では無力であると痛感した。“医師の帯同”というのはある意味“保険”なのかもしれない。使わないで経過することが望ましい。

前述の様にトレーナーの存在は大きい。おりひめジャパンには無くてはならない存在である。しかし、負担も大きいと思われる。選手の中には、夜のケアを受けたいがトレーナーの負担を考えると頼めないと遠慮している選手もいる。私見であるが、長期になり試合数が多い遠征は、もう一人トレーナーを帯同させた方が良いかも知れない。遠征の日数、試合数でトレーナー帯同人数をあらかじめ決めておくなどの規定はどうか。

昨年帯同したアジア選手権（ジョグジャカルタ）では下痢と腹痛を訴える選手が多かった。現地の食事（料理）の水や油、選手自身のプレッシャーなどが原因と推測していた。今回はそのトラブルはほとんど無かった。プレッシャーという面では今回の世界選手権の方が強いであろう。ヨーロッパの食事ということもあるかも知れないが、選手自身の強さ、対応能力が向上しているように感じた。

デンマークは練習中、試合中も選手の心拍数をモニター管理していた。試合中もベンチの担当がiPadの画面を見ており、そこには選手の背番号らしき数字、心拍数、何かを表す%、折れ線グラフが表示されていた。さすがはハンドボール先進国と感じる。試合会場でデンマークのスタッフに直接尋ねたところ、起床時、練習前、練習中、最大心拍数などを継続的に計測しているという。Polar社の計測器を前胸部に付けているらしい。試合中に最大心拍数の80～90%が持続している選手は一時休ませたり、ゴールキーパーの心拍数が落ちている時は、足を動かすように声をかけたりしているらしい。

どのように日本チームに活用するかが重要であるが、IHFにて研修中のスタッフやデンマークに留学中の日本人と連絡を取り、更なる情報を入手したいと考えている。

最後に、「一人のハンドボールファン」としての感想と印象であるが、明らかに全日本女子ハンドボールチームは強くなっていると感じた。それは「感じた」だけではなく点数にも表れていた。前述した選手自身の強さの向上はもちろんのこと、栗山監督・小薮コーチの方針が正しいのであろう。今後更に選手にその考えが浸透し、それが自然と行動に表れ、一つになったとしたら、より一段と強くなるであろう。今のおりひめジャパンにとって、世界の頂点はもはや手の届かないところではない。

ヨーロッパのハンドボールLIFE

海外に出る本当の意味

TVエムスデッテン　梶原　晃

はじめまして。おそらくこれを読んでいただいている多くの方は私のことを知らないと思いますので、自己紹介も含め、私がどのようにドイツに来て今までやってきたかを書かせていただきたいと思います（おそらく読んでいただける多くの方がそこに興味を持っておられると思います）。また、今までにも多くの選手がここで海外での状況や選手としての環境について書かれていると思いますので、少し違った視点で海外に出る意味を伝えられたらと思います。

私は10歳の時にハンドボールと偶然に出会って競技を始めて以来、ずっと父親の指導を受けてきました。競技を始めてから同じ指導者の下、一貫して同じ指導を受けられた事はここまでやってこられた大きな要因の一つであると思っています。高校は強豪校ではなく、大学では部活動には所属せずに同じハンドボール観を持った仲間とクラブチームを作り、また同時に高校生を指導することでハンドボールと関わってきました。それ故、日本リーグでのプレー経験もありません。

全てが初めてのドイツ

ドイツに最初に来たのは、まだ大学生の頃に休みを利用して2週間弱の滞在でした。現地とのコンタクトは何もなく、ただ『ドイツでプロの試合を観戦したい!!　まずはドイツ人とハンドボールをやってみたい!!』その気持ちだけでドイツに来ました。当時の私はとにかく臆病で慎重な人間でしたので、それだけでもかなり大きな冒険でした。各地で試合観戦し、偶然に出会った日本人の方の協力を得て現地のチームで練習をすることもできました。松ヤニも使えないアマチュアチームでの練習でしたが、ハンドボールの本場ドイツで初めてドイツ人と共にハンドボールができた喜びは今でも忘れる事はありません。その時に身を持って行動することの大事さを学びました。目標を定め、そのためにどうすればいいかを考えて行動していく事で、今まで自分になかった道を新しく作ることが出来る。これを最初に成功体験として学べたことが、私が今まで諦めずにやってこられた大きな要因です。

その翌年にもドイツを訪れ、各地で試合を観戦しました。その時にも多くの問題を抱えましたが、拙い中学英語でコミュニケーションを図り、様々な人に助けていただきながら問題をクリアしていました。観戦に行ったノルトホルンという町で当時のそのクラブ会長と出会い、試合前の会場案内や当時まだ現役で憧れだったブラニェス（Vranjes）選手を紹介していただけて、本当に夢のようでした。ずっと憧れていた選手とそのような形で挨拶を交わせるなんて想像も出来ませんでした。

またドイツ旅行中には何度か植松選手とお会いさせていただき、とても刺激を受けました。小さい頃からやりたかった事を現実として体現している人が実際に目の前にいるというのは言葉では簡単に表現できない感情です。色々なお話を聞かせていただき、急に訪れた私のような見知らぬ人間を快く受け入れていただけたことは、海外で生活している日本人としての意識付けの芯に今でもなっています。本当にたくさん勉強になりましたし、とても感謝しています。

本格的な挑戦

卒業後は旅行中に知り合ったHSGノルトホルンの会長さんに連絡を取って、テストを兼ねた約3週間の練習に参加させていただきました。当時のこのチームはヨーロッパのカップ戦で優勝したチームで、選手も各国代表選手揃いでした。その中で感じたことは、このレベルでも通用することがあるということでした。そこで自信を得た事は事実です。しかし当然ですが、必要とされる選手は5回に1回成功する選手ではなく、5回中4回成功する選手です。そこにはとてつもない大きな差があるということも同時に感じていました。3週間後には帰国の途に着きました。それからはある2部リーグのチームとコンタクトを取り「ぜひチームに来て欲しいと思っている。あなたの能力は疑っていません。少し待っていて下さい。」との連絡を受け、馬鹿正直に真に受けて待っていました。するとしばらくして「やはり可能性がなくなりました。今後の幸運を祈ります。」との連絡があり、結局ドイツのチームに加入出来るチャンスは無くなってしまいました。自分の中でドイツに行くことはもう決めていたので、『待っていても何も始まらない。とにかくドイツに行こう。』と思い、語学学校のある街を探して現在も住んでいるミュンスターに来る事にしました。最初の1ヶ月はホームステイをしていましたので、そこの家族に手伝ってもらい地元のアマチュアチームに加入することになりました。そこでは言葉の問題に大きく直面しました。ドイツでのセンターというポジションは様々な戦術を駆使し、全ての選手を動かす必要があります。攻撃時は毎回指示をださなければいけ

ないため、戦術眼と戦術理解の高さが求められます。ドイツに渡った直後の私は『スポーツに言葉はいらない』と思っていましたが、これは完全な間違いでした。言葉の壁は想像以上に高く、すぐに監督ともうまくいかなくなり、退団を余儀なくされ、別のチームを探さなければならなくなりました。ミュンスターから近くの町にある３部のチームと現在のTVエムスデッテンのセカンドチームとで迷った結果、将来性を考えてTVエムスデッテンに連絡をし、加入させてもらえることになりました。このTVエムスデッテンというチームはドイツ北西部に位置しています。1985年以来（90/91シーズンを除く）このチームは２部リーグで戦っていましたが、2013/14シーズンには初となる１部リーグへの昇格を果たしました。私はセカンドチームでの練習・試合に加え、トップチームでも練習に参加していました。次第にトップチームでの練習試合に参加させてもらえるようになり、遠征にも参加させてもらえるようになり、ようやく２部リーグでの試合にも出場するチャンスをもらえるようになり、といった感じで本当に少しずつステップアップしてきました。チームの１部リーグ昇格と同時に正式に選手登録され、夢であったブンデスリーガの試合に出場することもできました。

人間的な成長

ここまで大まかな流れを書かせていただきましたが、私なりにその時に出来る事を一生懸命に頑張ってきた結果が今だと思っています。しかし今までを振り返って冷静に考えても、私は海外向きの人間ではなかったと思います。それはハンドボールの技術とかそういったものではなく、人間的な内面での意味です。海外で生活する場合、日本で育った人間の感覚を持ってすると相当なストレスを感じることが多くなります。ハンドボール以前に生活環境を整えられなければ、正しいパフォーマンスには繋がりません。言葉も文化も違う国で、その生活環境を整えることは容易ではありません。行動力・知識力・ストレス耐性等、様々な人間的要素が必要となります。こういった所は私に大きく欠けていた要素でした。ここも一つずつクリアし身につけられたことが本当に大きな財産になったと感じています。

海外に出る本当の意味

日本の外を見る、海外を知る事は日本の事を見捨てて海外の事を全て受け入れるということではありません。日本以外の事

を知るからこそ、日本の良いところも悪いところもよく見えるようになります。これは海外で生活した経験のある方ならば、皆さん賛同していただけることだと思います。そして、大半の方は日本という国の素晴しさを身に染みて感じると思います。私自身、こんなにも日本の事が大好きで素晴しい国だと感じる事はドイツに来る以前にはありませんでした。そして日本の良いところはそのままに、ここが良くないと感じる部分を改善出来るように自分自身が何かをしたいと心から感じるようにもなりました。海外でハンドボールを学ぶ事が全てとは全く思いません。しかし海外に出る事でわかる事がたくさんあることもまた事実です。そしてもし日本国内しか見ていないとすれば、それは様々な事に気付く・知るチャンスを逃しているということでもあると思います。たくさんの知識を手にする事で初めて選択する事が出来ます。選択肢が一つしかなければ、それが正しいのか、最も悪い方法かすらも知る事ができません。

これを読んでいただけた方には少しでも海外の事を知って、日本を更に良くする一つの手段としていただけたらと思っています。そのためにも私自身何が出来るかを考え、行動していきたいと思っています。

平成26年度 公認コーチ養成講習会

日本ハンドボール協会指導委員会
委員長　笹倉清則

日体協公認指導者資格「コーチ」養成講習会〈専門科目講習会〉が、6月23日～28日の6日間に渡り、NTCにて開講されました。

ハンドボール競技における公認指導者資格取得者は、指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチの4資格を合わせて1,667名（2013/10現在）であり、63競技団体中17番目になります。コーチ養成講習会は、ハンドボール競技の更なる発展に向けて、全国レベルの監督・コーチ養成をねらいとし、経験則だけに頼らず、科学的かつ一貫指導的、また世界Traditionalを踏まえた指導理論技術を身につけることを目的に、年1回開催されている講習会です。

スポーツ指導全般に関わる基礎理論を学ぶ共通科目152.5時間（集合講習40時間、自宅学習112.5時間）と、各競技専門の理論・指導法などを学ぶ専門科目60時間（すべて集合講習）の受講で資格取得に至ります。

今年度は受講者22名で、実業団監督から中学校指導者まで、年齢層も幅広く、バラエティーに富んだ受講者が集いました。朝8時から夜10時までびっしり詰まった講義時間に加えて、ホテルに戻ってからもグループ課題をこなす全体カリキュラムは、他競技と比較しても、1、2を争う過酷さで有名です。そのカリキュラムの中心は指導実習であり、グループ毎の指導課題について毎日議論を重ねて、紙媒体での中間発表と、外部の高校生に対して実際に30分間の指導を行いました。

今年のグループ別指導課題は、

・積極的な3：2：1防御を導く組み立て（その導入から完成に向けて）
・積極的な6：0防御を導く組み立て（〃）
・変則的防御を導く組み立て（〃）
・6：0防御に対する攻撃の組み立て（〃）
・3：3防御に対する攻撃の組み立て（〃）

であり、グループ構成員4～5名の英知を結集して、指導課題の検討に取り組みました。自分の考えをしっかり述べながら他人の意見に耳を傾け、グループとしての指導構想を固めていく作業は、選抜チームを預かったスタッフがチーム作りを進めていく過程そのものです。特に1週間という限られた時間の中で、お互い初対面のスタートからコミュニケーションを取り、深めていく作業は、とてもパワーを要するため、グループによっては悲喜こもごもの感情や葛藤が生まれることになり、絶対的な睡眠不足も相まって、半端のない1週間となりました。

練習メニューの考え方についても、育ってきた環境の違いの溝を埋めていく作業は、意見の衝突を伴うことになり、ゲーム構想をまとめるまでにも膨大な時間を必要としました。しかし、これらの様々な意見交換により個人のハンドボール観が大きく拡げられ、講習会修了時には、その安堵感と達成感から、この上ない充実感が訪れたと、多くの受講生が受講後感想として残してくれた講習会となりました。

この後、40時間の共通科目の受講を終えると、晴れて「公認コーチ」となります。

これまでコーチ養成講習会は6月開催で行ってきましたが、今後は2月開催も視野に入れながら年間計画を組んでいく予定ですので、時期的に受講が困難だった指導者の方にも、受講機会が開けることになると思います。なお、来年度は上級コーチ養成講習会を計画しております。

最後に、指導実習のデモンストレーターとして、浦和学院高校ハンドボール部の選手の皆さんと岩本明監督には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。今後とも、指導員委員会が主催する講習会に、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

受講者

大沢勝、古賀直哉、安藤希沙、今泉貴雄、重留偉人、倉田正洋、大石剛、堀卓行、寺脇将、松浪博明、細江昌子、山下昌哉、日比野起年、永田匠、井手貴將、森下純弘、比嘉律、前田亮介、阪本瑛子、漆畑美沙、石黒将之、水野裕矢

講師スタッフ

角紘昭、笹倉清則、田中俊行、三輪一義、亀井良和、藤本元、市村志朗、大城章、吉村晃、北林健治、沢綾乃、島尻真理子

トップコーチセミナー2014報告

日本ハンドボール協会指導委員長　笹倉 清則

5月31日～6月8日に来日したドイツのクラウス・フェルドマン氏（IHF・EHFインストラクター、ドイツ一貫指導作成メンバー）を招聘し、東京会場（味の素ナショナルトレーニングセンター）で5/31～6/1の二日間と、愛知会場（豊田合成体育館）で6/7･8の二日間に渡って、「世界における攻撃のトレンドとそのトレーニング方法」をテーマにトップコーチセミナーを開催した。参加者は、東京会場30名、愛知会場67名であった。

セミナーの初日午前は、研修室で、世界のハンドボールのトレンド、技術力と認知力（観察力）、トレーニングの組み立て方およびトレーニング方法、に関してトップレベルのハンドボールを常に視野に入れた上での講義が行われた。

世界のハンドボールのトレンドでは、フェルドマン氏は、これまでの世界のハンドボール様相は、常に防御戦術の変化が先行し、それに呼応して攻撃が対応する経緯を辿ってきた。現在は多様化した防御戦術を使用するチームが多くなり、今後は、変化する防御に対応できるようにトレーニングする必要性が提言された。「攻撃のトレンド」としては、サイドプレイヤーをパスワークに入れず、バックコートプレイヤー間でのパスワークが主流となっている。また、現在の攻撃は（1）ポジショニング（2）きっかけ（これはよく知られたもの3つぐらい・どのチームも同様のもの）（3）バリエーションのある展開（フォロー）（4）解決（1人または2人の熟達した意思決定者の存在）、というプロセスとなっていることを具体的な映像交えながら解説した。

［写真提供］スポーツイベント社

技術力と認知力（観察力）では、ボールハンドリングとドリブル、キャッチとパス、スローイング（シュート）、基本的な攻撃動作のトレーニングの発展段階とともに、トレーニングの中に常に認知（観察）を含めることの重要性を指摘された。また、簡単なドリルから始まり、防御の動きを制限した段階で観察力を養い、最後により実践に近い防御でトレーングする方法が提案された。この中で触れられたトレーニングの組み立て方は、いろいろなプレッシャー（時間的・多様的な状況を与える複合的プレッシャー）を折り込むことが重要であることも指摘された。

初日午後の実技では、午前中に講義された「テクニックと認知（観察）」を取り込んだトレーニングを、ナショナル女子チーム（東京会場）と豊田合成ハンドボールチーム（愛知会場）をデモンストレーターに実施された。

内容は、観察を意識しながらのアップから始まり、ドリブル、パス、シュートのトレーニングについて、基本的ドリルから始まり、制限された防御を経て、より実践的な防御を取り入れたトレーニングの発展形態が提示された。その中には、午前中の講義にあった複合的プレッシャーも段階的に取り込まれたものであった。

2日目実技は、前日の個人技から最終的な6：6攻防の完成を目指したトレーニング内容が提示された。世界の攻撃トレンドに合わせて、バックコートプレイヤー3人のパスワークを基本から発展させ、1：1、縦の2：2、6：6攻防へと導くトレーニングが実施された。

［写真提供］スポーツイベント社

2日間のトレーニングは、トップコーチに必要な「世界のトレンド」を把握し、それに対応できるハンドボールのゲーム像を持つことの必要性と、それを実践に移すためのトレーニングの組み立て方、そしてプレッシャーの折り込み方など、現場に密着したトップコーチのためのセミナーであり、今後の指導者養成や研修に大きな示唆を与えるものであった。

今回、同様の講習会を2会場で実施したことは、セミナー自体にアレンジが加わりより発展した内容になったことや、受講者が100名近くになりより多くのトップコーチの方々に参加いただけたことなど、今後の開催方法に示唆を与えるものとなった。

最後に、このセミナー開催にあたり、ご協力いただいた全日本女子チーム、豊田合成チーム、愛知県協会の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。

なお、今回の参加者に配布する報告書ならびにDVDは、9月をめどに制作予定です。

［写真提供］スポーツイベント社

スコアールーム①

高松宮記念杯第4回全日本社会人ハンドボール選手権大会

開催期日：2014年7月2日（水）～6日（日）
会場：愛知県・中村スポーツセンター、枇杷島スポーツセンター

【男　子】

▼１回戦

琉球コラソン	35	（17－8、18－9）	17	HONDA
湧永製薬	40	（19－11、21－10）	21	HC岐阜
トヨタ紡織九州	31	（15－11、16－14）	25	HC和歌山
トヨタ自動車東日本	31	（16－11、15－11）	22	北陸電力

▼９－12位決定戦

HONDA	24	（11－12、13－7）	19	HC岐阜
HC和歌山	30	（12－9、18－13）	22	北陸電力

▼男子11－12位決定戦

北陸電力	33	（15－10、18－13）	23	HC岐阜

▼男子９－10位決定戦

HONDA	22	（9－9、13－11）	20	HC和歌山

▼２回戦

琉球コラソン	30	（12－12、13－13） （3－1延長2－3）	29	大同特殊鋼
トヨタ車体	32	（15－10、17－13）	23	湧永製薬
豊田合成	28	（15－15、13－12）	27	トヨタ紡織九州
大崎電気	32	（14－15、18－14）	29	トヨタ自動車東日本

▼５－８位決定戦

大同特殊鋼	39	（14－15、25－15）	30	湧永製薬
トヨタ自動車東日本	37	（18－13、19－21）	34	トヨタ紡織九州

▼７－８位決定戦

湧永製薬	38	（16－20、22－15）	35	トヨタ紡織九州

▼５－６位決定戦

大同特殊鋼	35	（15－14、20－10）	24	トヨタ自動車東日本

▼決勝リーグ

トヨタ車体	26	（14－10、12－13）	23	琉球コラソン
大崎電気	33	（16－11、17－17）	28	豊田合成
トヨタ車体	32	（13－9、19－14）	23	豊田合成
大崎電気	29	（14－10、15－9）	19	琉球コラソン
琉球コラソン	25	（9－12、16－13）	25	豊田合成
トヨタ車体	26	（12－15、14－7）	22	大崎電気

【最終順位】
優勝：トヨタ車体、２位：大崎電気、３位：琉球コラソン、４位：豊田合成、５位：大同特殊鋼、６位：トヨタ自動車東日本、７位：湧永製薬、８位：トヨタ紡織九州、９位：HONDA、10位：HC和歌山、11位：北陸電力、12位：HC岐阜

【女　子】

▼１回戦

広島メイプルレッズ	24	（14－8、10－11）	19	香川銀行T・H
北國銀行	33	（15－10、18－8）	18	HC名古屋
ソニーセミコンダクタ	24	（9－9、15－5）	14	三重バイオレットアイリス

▼５－７位決定リーグ

香川銀行T・H	34	（16－8、18－6）	14	HC名古屋
三重バイオレットアイリス	26	（12－7、14－7）	14	HC名古屋
香川銀行T・H	30	（17－10、13－11）	21	三重バイオレットアイリス

▼決勝リーグ

オムロン	27	（15－7、12－9）	16	ソニーセミコンダクタ
広島メイプルレッズ	25	（12－10、13－15）	25	北國銀行
北國銀行	24	（12－9、12－11）	20	オムロン
広島メイプルレッズ	26	（13－10、13－16）	26	ソニーセミコダクタ
北國銀行	33	（19－9、14－11）	20	ソニーセミコンダクタ
オムロン	25	（11－13、14－11）	24	広島メイプルレッズ

【最終順位】
優勝：北國銀行、２位：オムロン、３位：広島メイプルレッズ、４位：ソニーセミコンダクタ、５位：香川銀行T・H、６位：三重バイオレットアイリス、７位：HC名古屋

スコアールーム②

第34回全国クラブ選手権大会・東地区大会

開催期日：2014年7月12日（土）～13日（日）
会場：福島・本宮市総合体育館ほか

【男　子】

▼１回戦

渡辺組（神奈川）	40	（22－5、18－12）	17	Y.S.C（秋田）
土浦三高クラブ（茨城）	30	（13－8、17－13）	21	独眼竜（宮城）
学石クラブ（福島）	28	（15－8、13－14）	22	H.B.C（山梨）
上送（山形）	27	（12－11、15－13）	24	松葉送球会（千葉）
青商クラブ（青森）	28	（14－10、14－10）	20	新鮮組（群馬）
湖陵クラブ（北海道）	23	（12－5、11－12）	17	蓮田クラブ（埼玉）
桜門クラブ（東京）	33	（16－9、17－9）	18	不来方クラブ（岩手）
HCSaitama（埼玉）	24	（10－13、14－10）	23	福島SGクラブ（福島）

▼２回戦

渡辺組	23	（11－13、12－9）	22	土浦三高クラブ
学石クラブ	34	（14－10、20－9）	19	上送
湖陵クラブ	32	（15－14、17－13）	27	青商クラブ
桜門クラブ	32	（16－11、16－10）	21	HCSaitama

▼準決勝

渡辺組	31	（15－14、16－15）	29	学石クラブ
桜門クラブ	25	（14－10、11－14）	24	湖陵クラブ

▼３位決定戦

湖陵クラブ	33	（18－13、15－18）	31	学石クラブ

▼決　勝

桜門クラブ	22	（13－9、9－10）	19	渡辺組

【女　子】

▼１回戦

梅の家（東京） 32（12－12、20－６）18 yamagirls（山梨）
石川クラブ（福島） 26（13－12、13－13）25 日吉台クラブ（千葉）
ＲＥＤＳ（埼玉） 29（13－９、16－５）14 北海道倶楽部（北海道）
べにばなクラブ（山形） 23（15－11、８－９）20 筑波学園クラブ（茨城）
やんちゃクラブ（群馬） 30（16－11、14－11）22 古川ハンドボールクラブ（宮城）
SAKURAクラブ（東京） 27（12－９、15－５）14 福島クラブ（福島）
オレンジクラブ（栃木） 19（12－３、７－９）12 岩手桐花クラブ（岩手）
ガビアーノチップス（神奈川） 18（10－７、８－６）13 ＦＳＴＷ（東京）

▼２回戦

梅の家 36（18－５、18－６）11 石川クラブ
ＲＥＤＳ 28（11－９、17－９）18 べにばなクラブ
やんちゃクラブ 20（９－５、11－10）15 SAKURAクラブ
ガビアーノチップス 21（13－５、８－６）11 オレンジクラブ

▼準決勝

ＲＥＤＳ 18（７－９、11－８）17 梅の家
ガビアーノチップス 20（７－11、13－６）17 やんちゃクラブ

▼３位決定戦

やんちゃクラブ 23（11－９、12－12）21 梅の家

▼決　勝

ＲＥＤＳ 13（５－８、８－４）12 ガビアーノチップス

スコアルーム③

第34回全国クラブ選手権大会・西地区大会

開催期日：2014年7月12日（土）～13日（日）
会場：高知県・高知民体育館

【男　子】

▼Ａブロック

岩国クラブ（山口） 24（10－８、14－10）18 ＦＨＣ（福岡）
岩国クラブ（山口） 34（18－11、16－15）26 ＨＣ大分（大分）
ＦＨＣ（福岡） 30（15－12、15－12）24 ＨＣ大分（大分）

▼Ｂブロック

総社クラブ（岡山） 24（12－11、12－12）23 パームヒルズクラブ（沖縄）
総社クラブ（岡山） 34（18－12、16－11）23 徳島クラブ（徳島）
パームヒルズクラブ（沖縄） 27（11－11、16－10）21 徳島クラブ（徳島）

▼Ｃブロック

中央クラブ（香川） 23（15－９、８－12）21 熊本教員クラブ（熊本）
中央クラブ（香川） 27（12－11、15－10）21 ＨＣ七隈（福岡）
熊本教員クラブ（熊本） 28（16－13、12－15）28 ＨＣ七隈（福岡）

▼Ｄブロック

宮崎フェニックス（宮崎） 26（12－９、14－16）25 弓ヶ浜クラブ（鳥取）
宮崎フェニックス（宮崎） 41（20－10、21－10）20 アローズ高知（高知）
弓ヶ浜クラブ（鳥取） 28（13－12、15－14）26 アローズ高知（高知）

▼９－11位決定戦

ＨＣ大分 31（16－12、15－14）26 徳島クラブ
ＨＣ七隈 38（20－15、18－12）27 アローズ高知

▼５－７位決定戦

パームヒルズクラブ 23（13－９、10－７）16 ＦＨＣ
熊本教員クラブ 33（19－６、14－13）19 弓ヶ浜クラブ

▼準決勝

岩国クラブ 25（11－７、14－９）16 総社クラブ
宮崎フェニックス 32（17－８、15－10）18 中央クラブ

▼３位決定戦

中央クラブ 27（12－９、９－12）26 総社クラブ
（２－３延長４－２）

▼決　勝

宮崎フェニックス 18（11－６、７－11）17 岩国クラブ

【女　子】

▼Ｅブロック

コスモスビッキーズ（大分） 29（14－７、15－12）19 HCやまが（熊本）
コスモスビッキーズ（大分） 25（10－５、15－３）８ 香川レディース（香川）
HCやまが（熊本） 26（19－10、７－８）18 香川レディース（香川）

▼Ｆブロック

那覇西クラブ（沖縄） 21（11－７、10－９）16 徳山クラブ（山口）
那覇西クラブ（沖縄） 23（14－12、９－８）20 ＥＨＣ（愛媛）
徳山クラブ（山口） 22（13－９、９－12）21 ＥＨＣ（愛媛）

▼Ｇブロック

うとスポーツクラブ（熊本） 26（13－８、13－11）19 徳島クラブ（徳島）
うとスポーツクラブ（熊本） 23（12－７、11－10）17 宮崎クラブ（宮崎）
徳島クラブ（徳島） 30（14－６、16－10）16 宮崎クラブ（宮崎）

▼Ｈブロック

ＦＣＣ（福岡） 38（17－４、21－５）９ 高知クラブ（高知）

▼９－11位決定戦

香川レディース 23（９－６、14－11）17 宮崎クラブ
ＥＨＣ 16（７－５、９－８）13 香川レディース

▼５－７位決定戦

ＨＣやまが 22（14－９、８－10）19 徳山クラブ
徳島クラブ 34（12－12、22－３）15 高知クラブ

▼準決勝

コスモスビッキーズ 19（８－９、11－７）16 那覇西クラブ
ＦＣＣ 29（15－９、14－９）18 うとスポーツクラブ

▼３位決定戦

那覇西クラブ 30（17－10、13－11）21 うとスポーツクラブ

▼決　勝

コスモスビッキーズ 25（11－13、14－10）23 ＦＣＣ

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」6・7月入会・継続会員

【青　森】田辺貴美子【群　馬】酒井　宏【埼　玉】齋藤和也、佐藤秀明、佐藤三枝子【東　京】増田美穂子、安藤純光、大津武彦、小笠原泰代【神奈川】河野卓也、木本一成、花岡美智子【山　梨】齊藤　實
【静　岡】永井裕之【愛　知】安藤　孝、山田壮八、平野　怜、竹内佐織【三　重】加藤　祥
【京　都】山口栄一【大　阪】里村静俊、戸谷克蔵【和歌山】吉田正明、吉田恵子、加藤照男
【愛　媛】森實岳史【福　岡】和佐野健吾、日野祐一郎【熊　本】陣上修一

【9月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
9月13日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………………
9月4日(木)〜15日(月)
第6回男子ユースアジア選手権
……………………………(ヨルダン・アンマン)
9月13日(土)〜14日(日)
第34回クラブ選手権大会・中地区
…………………………………(愛知県・一宮市)
9月18日(木)〜23日(火)
日韓スポーツ交流…………(受入・男子)(未定)
9月19日(金)〜10月4日(土)
第17回アジア競技大会………………(韓国・仁川)

HAND BALL CONTENTS Aug. Sep.

日本代表の強化を担うリーグ機構の役割
……………………………………………西窪勝広　1
第2回U-22東アジア選手権
男子：監督・松 喜美夫、選手・堤由貴 …………2
女子：監督・山﨑英幸、選手・眞継麻礼…………4
第19回女子ジュニア世界選手権
団長・川上憲太…………………………………………8
監督・亀井好弘…………………………………………9
選手・河野　萠…………………………………………10
第19回ヒロシマ国際ハンドボール大会
総評……………………………………………山本　一　14
女子：監督・栗山雅倫、選手・本多　恵…………15
男子：選手・岸川英誉……………………………………16
REPORT：長谷川千紗 ……………………………19
第4回全日本社会人ハンドボール選手権大会
大会を振り返って………………………江成元伸　20
男子優勝：トヨタ車体・酒巻清治、木切倉真一…21
女子優勝：北國銀行・荷川取義浩、寺田三友紀…22
第34回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会
大会を振り返って………………………大橋清作　24
男子優勝：桜門クラブ・山崎貴士…………………25
女子優勝：REDS・武藤彩夏
第34回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会
大会を振り返って………………………武田末男　26
女子優勝：コスモスビッキーズ・阿部佳織………27
第39回日本ハンドボールリーグ日程…………………28
第6回ハンドボールチャレンジディビジョン
大会日程…………………………………………………30
フリースロー：アジア制覇への期待……早川文司　32
医事委員会だより…………井本光次郎、永澤雷太　33
ヨーロッパのハンドボールLIFE：
海外に出る本当の意味…………………梶原　晃　34
平成26年度公認コーチ養成講習会………笹倉清則　36
トップコーチセミナー 2014報告 ………笹倉清則　37
スコアールーム：第4回全日本社会人選手権大会／第34回全国クラブ選手権大会東地区・西地区…………38
20万人会会員／9月の行事予定／もくじ……………40

For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

株式会社 モルテン　東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

（公財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五四五号
平成二十六年八月二十六日印刷
平成二十六年九月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表〇三—三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円